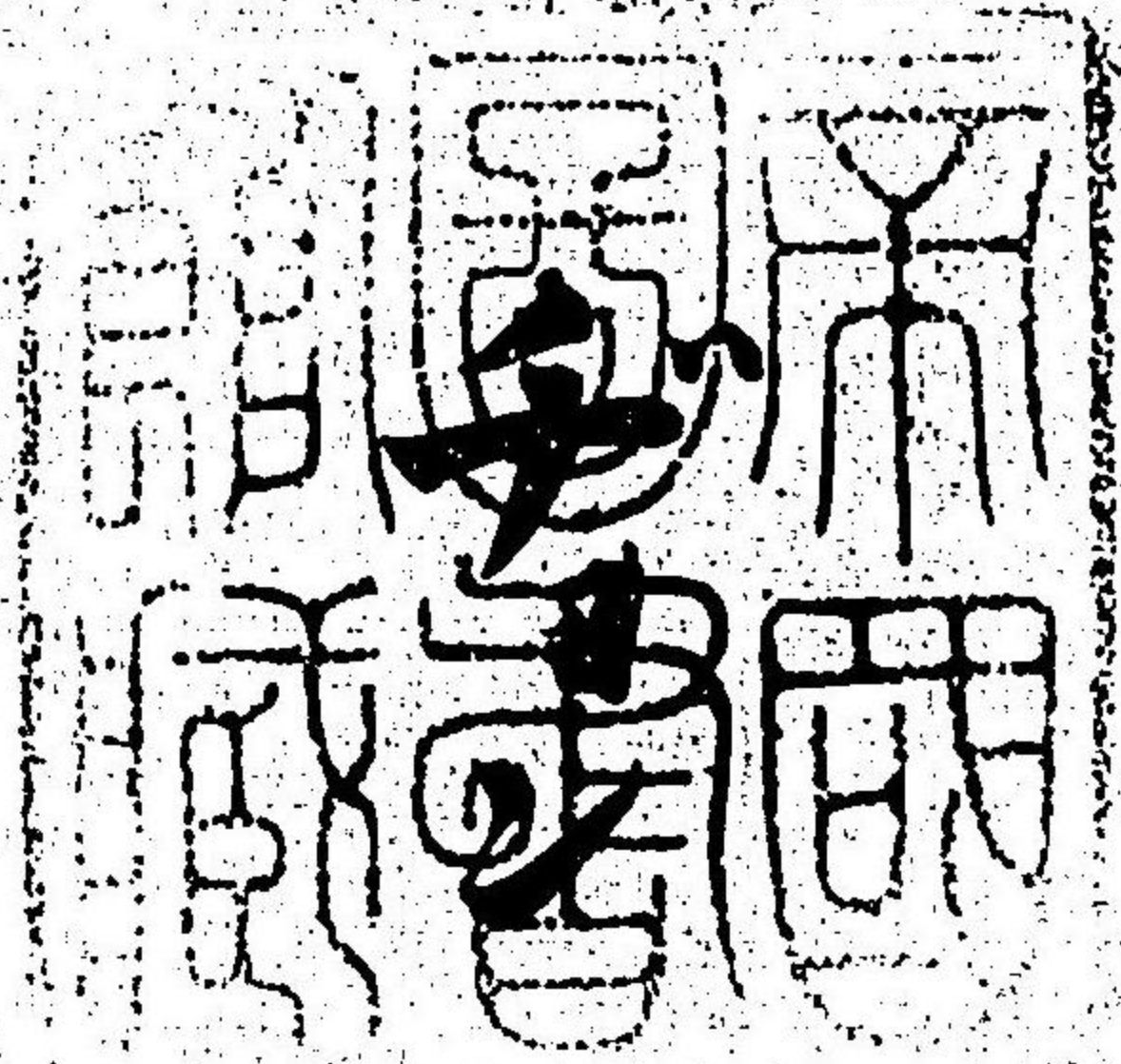


マックス オレル 著

チオンブル及び其郷土

草野紫二 譯註

特20
581



ブル及び其郷土



ヂョンブル及び其郷土目次

第十六章

勳章——青紐章及び黄紐章——軍隊——複數にて賣きもの單數にては必ずしも然らず——制服——義勇兵。……………一九

第十七章

英語と佛語——相互の貸借——發音困難の語——英國の小學生徒。……………二六

第十八章

佛蘭西人の英國殖民——佛蘭西人の在英諸

會合。……………一五

第十九章

十九世紀における沙翁生國の演劇——ドル
ーレー・レーン座——サアレー座——ウオタール
ーにおけるザボン・ショー及び十一人の佛蘭
西軍兵——ライシヤム座——女優モザエスカ
女優サラ・ベルナル——ランゲトリー夫人と
米國民。……………一〇六

第二十章

ピアノ——客室の音楽——演奏會——聖樂——音
樂祭。……………三九

第二十一章

新聞業——廣告——新聞記者——「タイムズ」——
「ボンチ」——新聞發行の自由——英文學——小説——

美術家——ケスター・グ・ドール。……………三五

第二十二章

大公立學校——教育——小學生徒の俱樂部——
校中の英雄——競技運動——牛津大學と劍橋大
學——論理街——俱樂部制裁。……………三六

第二十三章

私立學校——便利なる教員——教師周旋人——
商賣上手の校長——著者の舊話——席巻がれり
といふは席無しとの義にあらず。……………三五

第二十四章

青年政客——郷土——國會における大學派。……………三六

第二十五章

宮廷——女皇陛下と宮家——親愛すべき獨逸
諸皇子——政黨——貴族院——衆議院。……………三七

第二十六章

倫助の日曜日——教訓的物象——散歩用ステツキと蝙蝠傘との差——大道説教家——巴理の盲乞食と倫助の盲乞食——ビスマーク安息日に口笛を弄す。……………二六六

第二十七章

教會と禮拜堂——拜跪法の數種——容易なる懺悔——説教書の古本——大見世物的勤行——喜捨金——難船せる水夫。……………二七一

第二十八章

英國における宗教。……………二七〇

第二十九章

他の宗派——排天主教——グードフライデー——蘇國におけるカルヴァイン派——ソールト・レ

ーキ窪の追想——オルレアン少女の婚禮——クエーカー派——シェーカー派——吾々の参詣する理由。……………二七三

第三十章

救世軍——演神的揭示——回々教僧——救世軍勤務——如何にして悪者は地獄に行くか——機敏なる將軍——救世軍藥劑——ヘキユリヤ・ヒーブル派——ヨアナ・サウスコット及び跳躍派。……………二七九

第三十一章

英國民は即ちイスラエルの彷徨人なり——アングロ・イスラエル同種研究會——同種たる證據七十七條——尋麻を柔かき手にて握れば痛くその手を刺す勇者の如く是れを握れば絹の如く柔かに成らん——更に多くの宣教師

を要す——同種たる一新證據。……………三

第三十二章

結論——英佛人性格の相違——英人は宜しく
マニケーションたるべし——愛國心とは何ぞや
——英國民の接待法——英佛の同盟。……………三

(下巻目次終)

ギョムブル及び其僚士



第六

英吉利人は佛蘭西で勳章を佩用する人の非常に多數なるを見てよく笑ふ。成程勳章

のことは「リボン」(衆多又簡略)といふのは事實で、その名の通り多數に在る。赤紐は

往々倫動で見掛けるが併是れを鑑識する人は全然皆無、その意味を知つてゐる者は笑

ふし、その他の者はこの飾章を何か氣紛れ出來心の飾りおもちやだと思ふだけであ
る。英國にある佛蘭西人で勳章飾章の所有者は是れを佩用しない。しかし別に佩用禁
止の法律がある譯ではない。それは英國で諸君は星章とリボンで胸間を掩つても可

い、波蘭土の將校、瑞西の總督の如き服装し或は又表衣キルトの極短いのを一着に及んでも差し支へはない——誰も自分は襪褌着物で諸君の後から隨行しやうとは思はない。お好きならいくらでも滑稽な服装をし給へだが、しかし慣例ほど恐ろしいものはなく、輿論ほど恐ろしいものはないと思はなければならぬ。

英國女皇陛下の臣民は女皇の勅許に因てのみ、外國の勳章を受け得るのだが、制服着用ケイフの軍人の外は誰も途上で是れを佩用しない。英國勳章に關しては貴族、軍人、外交官以外には是を授けらるゝことは殆んど無い。文官、學者、文士、美術家亦是れを受けること稀有である。そして少數の外國首權者即ちガーター最貴勳章を受けるナイトを除いては、英國の飾章を所有する君主は甚だ少ない。

僕が英國には何等の飾章をも見掛けぬ、と言ふのは誤りだ。六十萬以上の男女が今日では青紐ブルーリボンをその上衣の釦の孔に挿んでゐる。此中にはあらゆるアルコール飲料を禁じたと自ら誓つた飲酒家もある、又總て心を酔はしめる物は斷じて飲まぬと決心した

感心な青年もあつて、此人達で青紐ブルーリボン軍が出来てゐる。英國にあつて諸君は、能ふべくんば道德的なることを希望する。が道德堅固なるも、ならざるも是を裝ふことは必要缺ぐべからざることだ。だから中流の英國青年や、年若の番頭手代や、小學校の腕白小僧までが道德堅固の證明書をその釦穴に挿む機會のあるのを欲する。例へば次のやうな廣告が毎日、新聞に表はれる。「青年の書記入用、但し善良なるクリスチャンにして且青紐軍の團員たることを要す」。そこで青紐の數は日毎に増加する。又僕は或新聞の記事で次の如きを讀んだ。「新飲酒禁止會今や倫敦に設立の計劃あり。會員は食事の時以外、總てのアルコール性飲料を飲用せざらんことを誓へり。會員は他の區別のため黄紐エローリボンの徽章を用ふべしと言ふ」。此會員が有力家として立つに至つたら、青紐軍の人は如何な面色をするだらう、見たいものだが、何はしかれ僕は黄紐會員の幸福を祈る。

英國は武將の國であるが、併軍兵の國民ではない。英國軍隊は自國內で甚だ評判宜

敷ないが、それには正に然るべき理由がある。將校士官は紳士で、教育完全なる人士であるが、只の兵卒は些とも英國民を代表してゐない。普通の兵士は好顔の青年で安逸の生活を爲し、狷々緋の制服を着して、彼等が婦人の視線内に立つ間は、決して他の男性にその目を外らさしめざらんが爲めにこそ、兵籍に這入つた人物で出来てゐるのだ。

ジョン プルのその兵士に對する愛は少し妙だ。彼等が占領地の事件を終つて凱旋した時分には、是を歓迎してその頭上に飾章の雨を注ぎかけるが、併、公開の宴飲場に行つてそこで兵士に會ふと英人は、急いでその傍を離れて嘔鳴る。「此所は尊敬すべき場所でない、兵士が來てゐる！」此國家の干城先生は單獨だと聲望を失つて了ふのだ。だからジョン プルは美人の盆の窪に渦巻を爲してゐる髪は美はしいと賞讃するが、若しその毛が一筋石鹼ソウダに附着くっいてゐてもすると、たとへそれは自分の戀人の捲髪から抜けてきたのであつても歪め面をする。

佛蘭西では大もての制服といふものも此所英國では一向有りがたく無いのだ。佛蘭西では知事、市長、技師、文官、官吏はおろか、御者でも車掌でも、否葬式の棺かつぎ迄が悉皆それ／＼制服を有てゐるが、此國では兵營へ行くか、觀兵式を見物に行かなければ、士官は何日でも平服を着けてゐる。只下士と兵士だけは制服着用で往來するが、是れすら帶劍その他の武器は携帯を禁じられてゐる。乗合馬車の御者、車掌は略帽、通常服だ。寛衣ワカズと無縁帽は吾が佛蘭西の平民庶民の制服であるが、英國の勞働者は都會でも田舎でも是を着用しない。衣服の型はもろ／＼の階級を通じて同一で差異が無い、彼の男は何階級に屬するのだらうと諸君の判斷する材料は單に英人の表衣コートの汚れさ加減である。

貧乏人の巢を食つて町で一番繁昌する商賣は古着屋である。金持は一週間か二週間軀に着ければその衣類帽子を下女下男に下げて了ふ。それを下女下男は着るか左無くば賣り拂ふ。このコート、帽子及び靴は六度から十度持主を代へた後で下級の勞働

者の手に渡る、それを彼等はポロ／＼になる迄身に着けるのだ。フィガローの口真似をすれば、是等の労働者は決して着物を見捨てない―見棄てるのは着物の方からである。

すると今度は乞食がそれを拾ひ取つて出来るだけよく軀に捲き付けるのだ。鳥の羽で飾つた是等の帽子の中には抒情詩家にインスピレーションを興えて近代のラヂオセイを作らしめさうなのがある。服装に於て貧民が富豪をまねるのは、悪解したる獨立心と平等心とである。佛蘭西の労働社會が寧ろ質素なる而かも新調の衣帽を用ゐるのも又―是れ善解したるものと著者は思ふ―矜傲の感情からである。

クライスト・ホスピタル孤兒院の生徒は今でもエドワード六世時代の生徒と同じ服装（黄色の靴下に深青色の長袍）をしてゐるが、それを除けば英國の小學生徒は平常は制服が無い、運動遊戯の時節は、敵味方を區別する番組に必要上一種の制服を着ける。

現役、豫備、後備及び屯田兵の外に英國女皇陛下は國家安危の秋、四十萬の志願兵に依頼することが出来給ふ。この志願兵は―甚だ無邪氣な、癩に觸らぬ軍兵と僕は云ひたい―大部分は青年の市民と銀行の書記で、一年に二度或は三度新鮮なる田舎の空氣を呼吸するために、帳簿堆き中を抜け出す折の來るのを歓迎してゐる。英吉利本國以外に軍役に引き出されることは決して無く、そして英國では日射病にやられる憂ひもないから、死ぬ時は愉快に自分の家で死なれると皆信じてゐる。生命保險會社はその趣意書の中に、出征軍人に關する條款を設けてゐるが、是れは些と皮肉だと僕は思ふ。―「生命保險の保險料を定むること斯の如し。但しこの保險料は軍人、兵士その他生命を危うする職に在る人には適用せざるものとす。志願兵諸氏は普通の保險料を支拂はれて可し。」

第十七章

英語と佛語—相互の貸借—發音しがたき語—英國の小學生徒

英人の外國語は流暢に行かない、併しその過失は英人自身に在る。

威嚴といふことが彼等の普斷に懸念するところである、始終威嚴を損じてはくどくどとビクビクしてゐるから、自國語を使ふことのできる限りは、外國語を使つてへまなことをしないやうにする。僕は太變巧みに佛蘭西語をあやつる英人を澤山知つてゐるが、それが我が國語を傷つける佛蘭西人とすら何處迄も英語で話したがるのだ。人が自國語以外の會話をやれば何日でも多少滑稽であるとの觀念を有つてゐる。そこでその滑稽男には此方はなり度ない、相手の者を滑稽男にしてやらうと自然天然思ふのである。

英人に向つて斯う言つても徒爾だ—「おやんなさい、心配することはありません、

佛蘭西語をお使ひになつたため貴方の國民性^{ナショナルリチ}を發見されたつて構はないぢやないですか。貴方は英吉利人なんです、誇る権利があるんです。何故それを恐れますか」或有名な人が言つてゐる—「貴方はアクセントを付けずに佛蘭西語を話す英人を信任しちやならんです」。この有名なる人と云ふのは即ち正にピスマーク公その人である。

一方で又英人は、何處何處^{どこどこ}に行かうとも必ず英吉利旅館^{オールドイングレチール}か倫動ホテルかあることを確信してゐて、財布さへ重ければ注意して他の宿屋には宿泊しないやうにする。糊口のために働かねばならぬ場合には、英國内でもその殖民地でも、英語で十分用が辨じることが心得てゐるが、併この一條は英佛海峡を隔てたお隣りの人も同様な考えをもつてゐるのだ。富裕にして子孫に遺すべき財産あり、以て子孫は安逸に生活を續け行き得る國々では、外國語の研究に關しては餘程無頓着である。獨逸では左様でない、その他糊口の資を稼ぎ出すに英佛語の智識の必要の國々では、さうは行かない。二種の母國語を有する瑞西に就ては僕は何にも言はぬ。英人に向つて、英人が外國語を學

んで得つゝある藝能は單に藝能にあらず、それ以上のサムシングであるといふことを説服するのは困難だ。加ふるに又英人は外國語修得上自然的困難を有つてゐる。佛蘭西語の母音は明瞭にして顯然たるものであるが、英語の母音は曖昧然としてゐる。英人は決して佛蘭西語の主調音トニツクメに十分の力ストレッツを入れない、佛蘭西語のプレジイ (Plaisir) を、何だかプレジヤア (Plaisir) といった風に發音する。英吉利の小學校では佛語會話は教授せんで、生徒に「テレマック」或はロルランの史書、バルテルミイの古典著書などを翻譯させ、また或は「コント・ア・ドルミイ・デブウ」の有名なる拔萃の如き佛蘭西の教授及び學生を狂氣にするほど苦しめたものを教科書に使つてゐる。英吉利の少年は又「ロマン・ド・ラ・ローズ」をも、否、「シャンソン・ド・ローラン」をすら讀ませられる。が、英國の少年に、「How do you do?」は佛蘭西語で如何言ふかと聞くと、先生全くどもツて了ふだらう。

女學校では佛蘭西の女教師が生徒と共に學校に寢泊りしてゐて、日がな一日佛蘭西

語を使つてゐるから、生徒も卒業する時には何れも大概皆佛語を可也に使ふ。その上、英吉利の婦人は世界開明各國の婦人同様、舌下筋が男子より軟かで、力強く、男子のより完全の機關カキクにできてゐる。語學の研究では男子は女子と到底角逐し得ない。

僕は嘗て或る大きい學校の校長に、その一生徒に就て言つたことがある。「この學校には稽古さいすれば完全に佛蘭西を操つり得る筈の生徒が居りますな。あの生徒は發音が實に巧いです」。すると校長は答へた。「え、私もさう思つております。彼は氣取屋の隊長です」。

その國籍の如何にかかはらず佛蘭西では誰を掴まえてもモシユー (Monsieur) といふ。ところが英人はそうでない、英人は外國人に向つてはミスターといふ語を使はない。佛蘭西人にはモシユー、獨逸人にはヘル、伊多利人にはシニョールの稱號を用ゐる方が敬意を表するものだと心得てゐる。演奏會の記事に、一寸斯んな風なものを読

者は見掛ることがあるだらう。「三部合奏はヘル・ヨアヒム、シニョール・ピアッチおよびモシユー・ダルメーヌが巧みに奏したり」。

佛語のモシユーは、英人が普断の努力にかかはらず必ず甚だ拙劣なる發音を爲す語だ。諸君は英國で始終モッサー、モッシャー、モシユー、モシヤー或はモンジャーなどと呼ばれるが、併し諸君は是れは、大に敬意を表せられたものと思ふが宜しい。全くジョン君は敬意を表するものとして使つてゐるのだ。Monsieur は畢竟 Monseigneur (主君)の退化したものだ、だから是れは諸君を *My Lord* と呼びかけるのと殆ど差はないのだ。

英語は始終佛語のために増加されてゐる、實際増加されたか。僕には反對に、獨り單語のみならず、語句、單文を外國語から借用するため却つて貧しくされたと思はれる。

新語主義は文學、新聞雜誌、および會話の上に襲つてきた。或小説ではこの狂望が、

滑稽なる程度まで運ばれてゐる。前世紀、ブレンハイムとマルプラケの戦捷後、英國のアディソンは佛語のこの入寇に對して聲を高めて、宜しく法律を以て佛語使用を禁止すべしと宣したのである。清淨教徒は再び又恐懼しだした。

佛蘭西は前世紀間、經濟學、遊戯遊獵、製造業、殊に航海術に關する語を除はゞ英語から借用してゐるが、借用したのは是れだけで、且その借用語中の大部分は、以前吾々が隣國にお貸し申したものだ。Budget, Tunnel, Jockey, Jury, Fashion などいふ英語は皆英人が Bougette, Tonnel (Tonneau), Jaquet, Juré, Racon などの佛語から拵えたものである。

現代の英人は全く一の成句を吾々から借用してゐる——a outrance, Par excellence, Hors de combat その他數百のフレーズは、現に英語となつてゐる。

佛蘭西の時様流行は英國全体に全く根付いて、それと共に時様流行の語彙をも移してきた。それに、英國の婦人は品物それ自らよりも、品物の名を聞いただけで吐胸

を衝かれ易い人種だから、その服装中多少にかかはらず口に上すことを憚る物は、元來の英語名を避けて安心してゐる。シュミイズ〔婦人用肌着〕、コーセット〔婦人用胸當〕、コーセイジ〔女衣胸〕、ヴェスト〔婦人下衣〕、トルニール〔婦人臂當〕などは皆今は英語になつてゐる。閨房中に必要の器具調度はすべて佛蘭西語の名稱を付けて置く。是等の外國語は常に意を言外に求めて餘情を示す佛語の婉曲なる性質と丁度適合する。佛蘭西語は意味が確然と一定してゐないで、何日でも迂餘曲折の妙を有する國語である。

學科の下調べをしなかつた佛蘭西の小學生徒は先生に、「先生、私は下調べがついておりません」と言つて先生の怒りを鎮めるために、空涙を一粒二粒零すが、英吉利の小學生徒は迂曲な語法を用ゐて、「あの、先生、私あの、濟みませんけれど、下調べをして……來なかつたかも知れません」とか、「下調べしたやうに、どうも思ひません」とか云ふ——始終不確かだ。若し確かで、立派な言ひ譯のある時分は、もつと鐵面皮だ。

著者の相識の教授に或日小供が言つてゐた——「先生、私はトランスレーションが出来てゐません、お婆さんが昨宵亡くなつたんです。」「さうですか、それぢや今日は許して上げますが、其度と亡くなつたりするとの無いやうにお婆さんに言つてお置なさいよ」と先生は言つた。又何日だつたか、俗語鄙語の澤山這入た例題が課されたことがあつた。「今朝貴方の持つてきた答按は耻づべきものです」と一生徒に僕の知人の教師が云ふと、「先生、それは私が悪るいんぢやありません、何時でもお父さんが助けてくれるんです」と生徒はやつてのけた。

在英國の最も著名な佛蘭西語の教授が、或日僕に言ふには、學生中には到底佛蘭西語を學ぶの能力の無い者があると。この學生は自宅では決して叫き以上の聲を出して話しをせぬ清淨教徒の息子で、卑屈者である、偽善者であるのだ。音調も表出も平明自由にして憶面なく發音すべき我が佛語は、彼等の咽元にこびり付いて、何日が日にも開け放したことの無い齒だの、或は開けることの困難な唇から外に出てこないの

だ。煮えきらぬ、はツきりせぬ、粘ばり強い句が彼等には一番似合ふのだ。この教授が又著者に云つたことがある——「或級を試験しやうとする時、生徒全体の面を見渡せば一目で完全な答按を——質問に應じて佛語で返答を爲し得る生徒は解る。その生徒は面を見られても、何とも思はん決然たる顔色をみせてゐるが、横目を使つて何處さなく不安らしい面付の生徒は、佛語で口がきけないんだ、言はせて見ないでも、それはもう確かにさうなのだ」。

佛蘭西語は總計凡そ四萬三千語でゐるが、その中二萬九千は羅典語原で、一萬四千はチュートン系統のものだ。羅典語原中の大部分はノーマン地方語を通じて英語となつた。斯ういふ譯だから佛語のあやつり方は獨逸人より英人の方が容易で巧みである筈だ、のに獨逸人の方が遙かに巧い。

英國における佛語教授法の改良には一つの刺激を興える必要がある。宇宙に於て最も自由なる、聰明なるこの兩國民は既に澤山の人種と言語との鎖で結合されてゐるのだから互ひに理解し合つて、もつと善く研究し合はなければならぬ。この兩國民は既に互ひに敬意を交換してゐるが、近き將來に於てこの敬意は一の愛に變じて、如何なる譏誣にも、どんな世俗的權力にも支配せられざるやうに屹度なるだらう、それは十分期待し得ることだ。

第十八章

在英佛蘭西殖民——在英佛蘭西人會。

英吉利に行つて生活を立てゝゐる佛蘭西人は今日およそ三萬人ある。その數は日々増加して行く。

二十年前より多くでは無い——この大都府に住むわが佛蘭西人は、同國人同士知り合つてゐる者は少なかつた、否、互ひに些とも知らん面をしてゐた。

佛蘭西人として諸君は、佛蘭西大使館の門戸は堅く諸君の面前に閉ぢられてゐた、

と言へばそれで十分である。

外國にきてゐると誰人も多かれ少なかれ用心深くなる。英人が歐大陸にきてゐると同國人を避ける―少くも、交際を結ばうとはしない。「陽氣な面つきしてゐる彼奴は誰だ」と自問するだけだ。

しかし此感情は最早倫動では、佛蘭西から移住してゐる人々の間には無い、佛蘭西人の移住者は今や廓大せられ、勤勉にして堅實、よく團結してゐる。

「佛蘭西慈惠院」、「佛蘭西病院」および、それぞれ多少重要な諸會合、諸團體のほか、千八百八十年倫動には、「佛蘭西國民協會」が設立せられて、現今一千名近くの會員を有してゐる。

著者はその條款から次の拔萃をする―

「倫動における佛蘭西移住者は漸次主要なる位置を占め、その表出する利害得失は益々擴大せらるゝに至れり。是に於て吾人は一の組織を作りてその數多の要素を合併結

合して堅實なる一團と爲し以て潑刺たる愛國の心と人道の念とを會員相互の間に保存せしめんと希望を起すに至れり。

一 本會は英國在住佛蘭西人の爲めに設立せられたるものにして、是を「佛蘭西國民協會」と命名す。

二 本會の特殊目的は會員に相互面識の便宜を與えて、以て相互の間に尊敬と親善との關係を作らんとするに在り。而してその一般目的は佛蘭西移民者の利益を保護し、且哲學的及び道德的問題を研究するに存す。

三 その趣味或は職務の同一なる會員間の交誼を圓滑ならしめん爲め、本會は次の三部を置く―

- (一) 商業問題研究者に對する商業部、
- (二) 科學及び文學の進歩を研究する科學部及び文學部、
- (三) 美術に關する美術部。此の部員は本會員が有するその技能を扶けて、本會例

會に獨特の興味を興ふべきものとす。

一六

この「佛蘭西國民協會」は甚大なる義務を盡すべき天職を有してゐる。個人として出来なことを合同團結して爲すのである。

此協會の擁護するのは單に物質上の利害得喪のみでない。「佛蘭西國民協會」は會員全躰の胸中に、母國に對する愛と記憶とを生動せしめんとするものである。各自、自己のため自己の目的を達せんとして奔走せる英國では、以上の觀念は最も忘じはて易いのであるから。佛蘭西國民協會はよく親睦の宴を張る、時とするに舞踏會もある、又折々は音樂の演奏、演劇の開催もある。是等の社交的集合は此所に參會する人々に各々その流寓者—自分の勝手に流寓したのだからと言つて決して寂寥でないことはない—たることを忘れしめて、再び又生氣を鼓舞せしめるのだ。

けれども著者は此人達が餘りに排外的にならざらんことを希望する。で無くして吾人の善隣者英人を續々研究せられんことを望む。英吉利に居る多數の佛蘭西人は、英

吉利物と名のつくあらゆる物を非常に恐れてゐるが、是は寧ろ滑稽ではあるまいか。二十年近くも英國に在り乍ら、英語は一語も知らぬと、それを誇つてゐる人を僕は知つてゐる。又反對に、機會のある毎に、吾が愛すべき母國を悪口して喜んでゐる人も僕は知つてゐるが、この男は一層英人らしく見せかけんために姓名を變えた。その男の悲しむ唯一のことは、赤い頬髯が無いといふことだ。

是れは兩者とも同等に避くべきことである。

英吉利に來てゐる佛蘭西人は二重の天職を負うてゐるのだ。英人中旅行の途に上る少數の人士以外には佛蘭西が知られてゐないから、その未だ知られざる佛蘭西國を英人に紹介するのは在英佛人の天職である。又此人々は吾人に英國を—從來吾人にとつて堅く封鎖せられた英國を、吾人に熟懇なるものと爲さねばならぬ。

扱諸君の靜聽を希望する。—英國の地理入門書がその少年少女に教へるところは如何か。是を著者は諸君にお聞きに入りたい。

一七

佛蘭西(その性格)——佛蘭西にては商業家はその事務の整理を妻の手に委ねて、己は曖昧料理屋に上り或は公園を遊行す。又或はその他の遊興場に入出す……」。

「放肆淫逸は佛蘭西國民の卓越せる特性なり。其國民各自の第三の妻は正妻にあらずして、各自の第三の兒は生れながらにして汚點を印せられ居れり」。

印刷物とした物は何事も眞にして偽りなしといふ原理の下に、英國の少年少女は、皆是ういふ途方途徹もない記事を経典ゴスペルでもあるかのやうに鵜呑にして丁ふ——小兒の腦髓に詰込まれるのは斯の如き材料である。その結果は次の様——著者は左の答按を國民小學生徒の論文エッセイから引く。是れは不埒にも試験委員が僕に漏らしたものだ。原文その儘を諸君に見せる。——「吾が英人の商業は正直なり、されども佛蘭西人は大に異り……英國沿海の村落にては佛蘭西の海賊のために毎夜強奪を行はる、故に、英人は多大の費用を出して沿海警備軍の全部を維持するの必要あり」。

併し我が佛蘭西人もあまり外國の事情に通じてはゐない。例へば英吉利貴族の一青年が濠州に移住せんとしてゐる、といふことを僕が或る佛蘭西人に書いてやつたところが、或る日返事をよこして、「濠州に移住せんとする？ そんなことが出来るものか、野獸と共棲しに行くなんて！」

倫敦駐在の佛蘭西總領事ブランシャール・ド・ファルジュ氏は千八百八十三年一月開會の佛蘭西語の教師會で面白い演説をしたが、その演説で斯ういふ具合に言つてゐる——「諸君、政治上の問題を持ち來たすのは場所柄でもなく私の趣味にも合はん、又嚴に私の職分内のことでありませんから、その政治問題を捏ぎ出さうたせんですが、私は併し自分の繩張内から出んで斯う申し上げる、若し吾々佛蘭西人一同が他の歐羅巴の同胞を理解すること、尙ほ歐羅巴の同胞が吾々を知つると同程度であつたら、吾々は多くの失望落膽を免かれるぢやらう、少くも多くの誤謬を避け得らるゝぢやらうと斯う自分は繰返して申すのである。是れや自分が日々多數の證據を握る事實であります。に因つて諸君の貴重なる時間を浪費せん限りで自分はその所以を説明せうと思ひ

ますから左様御承知を……。

諸君、私は佛蘭西の郵船が到着する毎に多数の書簡を落手するのでありますが、その書簡を読んで自分は絶望の歎息を漏らすことが屢々あるのである。何故かといふと自分は勿論その書面を送りこした人に満足を與えてやりたいのではあるが、それが到底私の盡力に及ばんことを請求してくるのぢやから困る、到底出来がたい事件を頼んでくるから實に弱つて、先方の要求を満足させることが出来ん、それといふが大概は英吉利國に就て皆式知識が無いからぢや——英吉利の國體、慣例、風俗、習慣といふものをからさし知つとらんところから私の職務以外のことを申し越でるのであります。或る書面は私に私の——私人としての力を振うて詐欺師野師を手厳しくやツつけて貰ひたいと書いておる。他の人は又失踪した妻、夫、息子又は娘を搜索して取戻してくれえと頼んでくる、まるで自分は警察官の一大隊でも手もとに養うて居るから苦もなくその者共の手で失踪者を捕えて、そして腕力づくで此奴等を佛蘭西船にぶち込むこと

が出来るとも思うておるのであります。多数の佛蘭西人はこの、私達のおる際涯知らずの八幡の森宜しくといふ倫動で、是々の人をと御親切に名前を告げて、その人々を見つげ出して呉れえと搜索方を依頼して來るのであります。此方法で以て近い頃地方の村會議員が、英國のゴルドン嬢といふ婦人は如何なつたか是非知らせてくれえと申込できましたが、此先生嘗てこの娘に英國の沿岸地方で會うて、以前大恐悅のことがあつたんぢやらう。同様に又さる大家からは先日、家出した家人の消息を何卒報知して呉れといふてきたが、その家人といふのは、「嘗て自分の軍隊に兵籍を置いとつた男で、愛耳蘭土生れの移民の間に勤務しとる者ぢや」と書いてきて居るのであります」云々。

「佛蘭西國民協會」につれて均しく有益なる他の一會が起つた、それは英國における佛蘭西語教師の國民會を云ふのである。諸大學、諸公立學校の佛語學、佛文學の教授

は學術藝能の卓越せる人々であるが、併し是等學問藝術の淵源以外、他に技能に富む教師の數は澤山在る。けれども是等の教師はその技能を發揮する位置に居ないところから一つの困厄事に苦しめられてゐる。それは各國民中——佛蘭西もその中の一つだ——數百の詐僞漢が、僭して我は佛蘭西の教師也と稱するその者共と、眞の技能ある士とが、混淆して世間より見らるゝことである。

茲に倫動に賢明なる一青年教授があつて、眞にその名を値ひする佛蘭西の教師を合同して一團と爲し以て一の會合を作らんとするの義侠ある意見を持してゐた。この會の第一目的は佛蘭西語の教授法を改良し發展して、英國に佛語の智識を播布するに在り、第二には資金を集めて老朽せる會員に補助金と年金とを給與する目的である。我が大キクトル・ユーゴは此青年會の名譽會長で、碩學の士および第一流の文學者の名も亦名譽委員中に發見せらるゝ筈である。英人の名譽委員も今や撰定中で、萬事此有益なる會同の將來に頗ぶる赫々たる希望の光明を示してゐる。

佛蘭西より此國に移住せる人々の必要とする物は一見悉く備つてゐるやうであるが、實はまだ吾々の不満足を感じる點がある。佛蘭西中學の欲如せること即ち是。倫動在住の我が同胞はその子弟を英國人の學校に入學させなければならぬ。又移住者中の青年は英國の婦人を娶るものが澤山あつて、この離婚から生れる間兒わいのこは全然佛蘭西に對して無感覺である、そしてその過半は佛語を話すことが出来ない。この有様を見て兩親も考えを巡らした。そして佛蘭西の教育と英吉利の學問修業の利益ある點を組合せたら、一の中學リセがこの必要に應じてよく欲所を満たすだらうと、斯う考えてきた。佛蘭西中學の設立は日一日切實に感じられる。

要するに相互の信任は恢復せられ、愛國心は昏睡の狀から醒めた。而して年々その數と重要との點で増加して行く在英佛蘭西人の移住民は、久しからずして英佛兩國民の爲めに第一流の役を演ずるに足る一小勢力となることだらう。

第十九章

十九世紀における沙翁の國の演劇—ドローレー・レーン座—サアレー座—ウオータールーにおけるジョン・ショー及び十一人の佛蘭西軍兵—ライシヤム座—女優モヂェスカミ女優サラ・ベルナ—ルーラングトリ夫人と米國民。

英吉利の芝居は十九世紀の間に墮落せられるだけ墮落した。大沙翁を有し、大詩人大小説家の綺羅星と並べる英國の此現狀は、何と説明したら宜からうか。

此責任は一部看客聽衆が負はなければならない。看客は演劇の評判者でありながら、その評判を公然と發表しない。芝居の中で拍手して喝采するのは悪い。叱聲を揚げる半疊をぶち込むのは尙ほ悪い。僕は役者が恐ろしく調子外づれに謠つたのを聞いたことがあるが、聽衆は些とも騒がなかつた。斯んな役者は何でも手さへ拍かれれば嬉しがるのだ。ジョン・ブルは彼を娛しましめんと努めて而かも失敗する俳優を氣の毒

がる、そして元來寛容なる此英人はその藝術家を容赦して置く。

ジョン・ブルは劇の所作と溶けて一團となることをしない、あれはホンの芝居だといふことを忘れない。趣味深く謠ひ、自から作中の人物と同化して狂喜狂憤する俳優は、英人には素適な滑稽と感じられるのである。ジョン・ブルは役者を、糊口の資を得なければならぬ哀れな山師で、そして—

「……その爲めに人間の心を棄てた」
のだと思つてゐる。

伊多利では看客聽衆が藝術の素養を有つてゐる。彼等は次中音謠者を矯正して、鈍な謠方をする時は正しいノートを教へてやる。

下流の英人は芝居のことは皆式知らないで、芝居見物に行くことも絶えて無い。此英國では勞働者がオペラの一節を謠つたり唸つたりするのを聞いたことがない、佛蘭西の勞働者が皆謠ひ唸り、ブルワールに最負の役者を有つてゐるのは大違ひだ。

英國の下層社會は、働いて貨を儲けて、それをビールと杜松酒ジンにして、そして授産場か泥溝の中で成佛して了ふので、世に美術の存在せることは夢にもそれと知らんのだ。中流人士も演劇に對する趣味を有たない。貴族だけが半夜を消し、腦を欠伸殺しに行くのだ。利發な人は家内ウチにチツとしてゐる。

且演劇は私人の設計物で政府から補助金は受けない。劇場の持主は大概一座の座頭が兼ねてゐるが、他から維持せらるゝことは極めて稀れである。否全然無い。大歌舞伎でも、立者二人は可也巧いが他はみんな大根だ。英國には朗唱法デライゼンを教へる學校なくわが佛國の藝術練習所コンセルヴァトワールに比較すべきものは皆無だ。此國の俳優はその徒弟年期を、苦情を言はぬ見物の前で勤めるのだ。

すべて是等の結果は、文學の大家が脚本作家として名を挙げやうとはしないことになる。英國桂冠詩人アルフレッド・テニスンは、一の悲劇と二つの喜劇とを作つたが、併それすら默殺的成功を得たのみだ。

見物の好むところは役者が丁とよく心得てゐる。で、一般に自分手細工の—大概は佛蘭西物の翻譯—芝居をやつてみせる。吾が佛蘭西劇は皆手足を斬られ首を刎ねられて此國の舞臺に姿を現するが、呀その俗悪さ！英人の趣味に適する如く改作したる佛蘭西物—その趣味—その改作！

但し原作その儘が上場されることもある。如何な餌えさでジョン・ブル君は釣りあげられるのか、諸君のお望みとあらばドルレー・レーン座の廣告を次に千八百八十二年十月の新聞から拔萃しやう。外題は「勇氣ユウキ」といふのだ。

ブラツクの第六十九回興行

ブラツク——純一無雜の滑稽

ブラツク——戦慄惡寒を覺ゆる場面シーン

ブラツク——歎呼喝采

ブラツク——極悲痛絶の悲歎

「ブラック——保険付の好劇
「ブラック——三時間の演了。

ブラックの第六十九回興行

「デキッド・ガーリック以来最大の俳優兼作家兼舞臺監督アウガスタ
ス・ハーリスの歸朝。

ブラックの第六十九回興行

「素張らしき大入

「霹靂の如き一百の拍手

「鯨波の如き二百の笑聲、

「驚歎すべき効果

「當演劇期中の最大成功」。

總て是れ原文の儘を抜いたのだ。單に是れだけではない。この男は新聞紙で英國市民に左の如く訴えてゐる。英國市民を救済して是を先生始末して了ふ氣なのだ、と僕は思ふ。即ち、「紳士諸君——善人も悪人も、貴女諸姉——操正しき者も然らざる者も墮落せる婦人すらも、來つて予が劇を見よ。予は彼の一種の俳優が盜賊及び凶悪者を、花紅のに葉緑りなる野原の物語りしつゝ死に行くセンチメンタル主人公と爲す徒の擧に習はずして、この現世に於てすら罪惡、奸詐、詭譎が、一たびは凱歌を奏するも而かも竟に滅亡の日に遭遇せざるべからざることを演出すべし。予は過去における如く將來も亦、予が諸君に辜負せる信用と責任との如何に重大なるかを證せんと努力すべし。予が管理のもとに嶄然頭角を抜ける國民劇場ドルレー・レーン一座は、永久に道徳修養の營舎たるべき也」。

是れにはイノーの賣藥廣告も三舍を避ける次第さね。

この芝居一つの中に、殺人と泥棒とのほか、鐵道の變事や火事や、銀行襲撃の大騒

三
動があつて、銀行の窓硝子はメチャクに叩き毀される事があるのだ。

「呸、名優アウグスツス君！仕合せな見物人！
頭痛がしてくるではないか、諸君。」

同じやうな例を今一つ引いて御免を蒙むらう。今度のは第二流の劇場サアレー座の
廣告だ。

「サアレー一座——寫實主義の七幕物——前週土曜日には五千人の看客入場を拒絶せら
るゝの止むなきに至れり。空しく歸り行く幾萬の群衆の爲め、乗合馬車の往來は一時
杜絶せられざるを得ざりき。幸ひに入場して一席を占めし人も、比較を絶したる場面に
驚いて息を殺して只目を瞪りたり。その面上には恐怖と喜悅とが交々描き出された
り。此廣大なる劇場における如く完全なる勸善の筋は未だ嘗て之れ有らざりき、極度
の懲惡を示せる劇も未だ嘗て之れ有らざりき！」

少し後の方に斯う書いてある——「從來演せられし、或は演せられんとせしものの中
最も殘忍なる、狒々の如き、恐ろしき、血を凝らしむる、驚くべき、酷薄なる、怪し
き、奇しき、人性を備ふる、現世的ならざる、悪魔の如き、人を昏迷せしむる、恐ろ
しき懐かしき劇。——正七時半開幕」。

「ウォータールー」といふ外題の、華々しい見世物芝居で僕は有名なるジョン・ショーが
十一人の佛蘭西人を殺すところを見た。是等の十一人の不幸なる槍使ひが、この恐ろし
い侍衛の手にかかつて殺されるために一人宛出てくる慇懃丁寧な態度は、イヤハヤ大
に感服を値ひするものであつた。

併しながら倫動にも眞面目な劇があることはある。芝居期節即ち四月から八月迄に
は世界的音楽家の妙技がカゼント・ガーデンやドルレー・レーンで聴かれる。その時
には此所で外國オペラの傑作が演せられる。

眞に注目のある英國唯一の劇場はライシヤム座である。

ヘンリー・アーヴィング氏は技能卓越せる俳優で、その受け持つ役々を忠實に研究する。ドラマに於ては甚だ巧みである、新聞劇評家は時に氏の沙翁ものの役を酷評すこともあるが、併し矢張氏は英國劇壇の首位を占めるものと認めなければならぬ。ガリック、キーン、ケンブル及びマクレディなどの唯一の継嗣者たることは世評の許すところだ。

吾が佛蘭西座に比較すべき國民劇場は英國には一つも無い又そんな劇場の必要も感じないのだ。沙翁劇が國民劇の唯一のものなのである。王位復興時代の劇は野卑猥雑である、その當時の劇曲家の作は大部分モリエールのコメディを翻案したものだ。ワイチェルソイ、コングリーヴ及びファーキューハーなどは、單に查列斯二世の不身持氣隨レストレスな妃姫達のために作つたのである。十九世紀の人は——尙ほ今でも清淨教徒的の——斯の種の芝居に耳目を貸すことを嫌つてゐるのだ。

シエリダンは實際コメディの名作を二つ作つた——「スクール・フォア・スキヤングル」と「ゼ・ライワルズ」と。併、それはもう死んでゐる。

何ぼコントラストの烈しいこの英國でも、一沙翁を有して國民劇の目錄はその創作物を以て終始し——大沙翁、模しがたく近づきがたき詩人中の巨擘、一種の半神的人物——、而かもその後全然の不毛石胎！とは奇態なる而かも顯著なる事實ではないか。カーライルは言つてゐる——「印度帝國は有るも可、無きも不可なし、されど吾人は沙翁無くしては一日も得あらず。印度帝國は何日か亡ぶべし、沙翁は決して亡ぶべからず、吾人と共に永久に續き存すべし。吾人は到底大沙翁なくしては得あらざるなり」と。

過ぐる三年間、吾が「コメディ・フランセーズ座」の優秀なる俳優は、毎年六月ゲエチイ座へ來て興行した。

世間の人はその芝居を見物に群れ集つた。ジョン・ブルが果してよく吾がコクラン

を鑑賞し得るか如何か甚だ怪しいが、しかし、そんなことは如何だつて可いのだ、ジョンは錢を出して芝居の棧敷に坐りさへすれば、一語半句も解らんでも愉快を感じるのだ。それは左の逸事が是れを證明する――

波蘭土の女優マダム・モヂェスカは英國ヘーマーケット及び王宮座で、たび／＼其得意の役を演じて成功を博取した後、倫敦の有名なる一客座ドローイングルームで演じてくれると申しこまれた。それは或る詩を女優の自國語で謡つてくれとの依頼だ。モヂェスカは答えて、「それでは貴方がたお解りにならないでせう、私は解つて聽いて戴きたいのですから」と言つた。それでも先方が頻りに頼むので到頭女優は承知して、悲劇的人物の姿勢を構えて何か波蘭土語で謡つたのである。ジョンブルとその賓客とはその妙音美聲に三嘆驚殺されて了つたが、翌日になつてマダム・モヂェスカは、一から百までの形容詞エパテツをどつさり謡つたのであるといふことが解つた。

吾がサラ・ベルナールは數月前地方漫遊をやつた。ブラックプールで演戲すること

となつた當日、此の女優は重い氣管支炎に罹つたので、彼は劇場監督のもとに行つて事情を話した――「今夜は私出られません、聲を潰して了りましたから」。すると、御定連様の意中を十分呑み込んでゐる樂劇頭取エムプレキリヤは譯なく答へた――「いやそんなことは構やしないんで、見物は貴女のお顔を見たがつてゐるんですから貴女は聲を出して謡ふにや及びません。身振だけして見せて下されや、それで矢張衆大喜びですから」。『けれど私は見世物ぢやありません、私は藝術家でございます！』と此名女優は怒つたのである。サラは剛情だ、出て謡ひもしなければ見世物にもならなかつたので、監督ディレクターの失望落膽オチといつたら無かつた。

上流社會の交際場裡に立ち交はつて、英國第一等の美人と評判とり／＼のラングトリ夫人は今年の春舞臺上の花となつたが、十二三遍も倫動人士の爲めに芝居してから――否顔や姿を見せてから、亞米利加に渡つた。亞米利加の新聞は筆を揃えて、夫人

は俳優たる技倆が無いと言つたが、併し米國兒は夫人を見物に群れ集つて、そして樂^{オケ}伴の座席に這入るために十弗から十五弗の貨を出したのである。英吉利の諸新聞は日^{ストラ}日電報を以て、夫人が渡航の、財政上非常の成功なることを詳細に報じてゐた。英國皇太子と皇妃とは夫人に祝辭を送つた。茲に面白いことはラングトリー夫人が斯く莫大な貨を拂はせて群集を引き寄せてゐるに反し、同じく紐育で興行中のアデリナ・パッチィ夫人は、比較的不入の芝居をしてゐたことである。

吾が佛蘭^{オアートル・フランゼーヌ}西座では開幕に、嚴肅なる敲打^{ソックス}を三度やるが、英國の劇場には是れが無い。此國では「ハムレット」或は「オセロ」の幕毎に、ボルカダのクワドリルだのを挿んで諸人を惱ませる。けれども又、出方に煩さく付き纏はれて苦しまれる憂ひは此國の劇場には無い。この二つの閉口物の中では僕はクワドリルの方を我慢する―入場切符の代金中にそれは含まれてゐるから。それに諸君は勝手に喫煙が出来る―接待

菓^ウが丁と喫煙室に備えてある。英吉利の芝居でモ一つ可いことは、幕間がほんの三四分間で、十一時には家に歸つて寝られる―さうでも無けや堪らない。

第二十章

ピアノ―客室音楽―演奏會―聖樂―音樂祭。

倫動にはピアノの無い家は一軒も無い、靴直しですら屹度裏座敷に一臺は備えてゐる。若し此國の人が巴理人のやうに高長屋に住んでゐるならベッドラム、コーネー・ハウスその他の癡狂院は決してピアノの爲めに氣違ひにされた人間を收容することは無いだらう。氣違ひができれば癡狂院に入れるから、乃でタイした不都合も無く、皆めいゝ自分の家に住むことができてゐる。

女は皆―一人の除外例無く、と言つても可い―ピアノを弾く。しかし一家の細君や娘やが自分のうちで弾くこのピアノが、眞面目な音樂好きに面白いと思はせるほど上

手に弾くのを僕はまだ聞いたことが無い。その弾方には少しも表情が伴つてゐない。この人惱ませの樂器を或る倫動の大きい女學校で教へてゐる教授兼作曲家が、或日校長の婦人に愁訴して、生徒のピアノ演奏には感情も表はれなければ表情も無いと言つた。校長のレディは片頬に笑みをみせて、「だつて貴方、若い娘たちに感情を教へて戴かうツて貴方にお願ひ申してゐるんぢやございませぬもの」。

謠ひ方も矢張さうだ。折々美音に邂逅することもあるが、併、何の印象も與えられない、一只もう、噪ぎだけだ。何等の運動も無く、顔の筋一つ弛みはしない。聲帯の機械的運動、單なる生理的現象だ。

僕は或る晩何某のうちに招待されたことがあつた。伊多利に行つて、其所で音樂を研究してきた若い令嬢が一つ謠つてお聴かせ下さいと懇望されて、謠つた、「我をして再び夢想せしめよ」といふアーサー・サリワンの美しい謠を餘ほど趣味豊かに謠つたのである。

「あの令嬢は大變巧く謠ひますね」と僕は側の婦人に言つた。

「さう……ですね」と、少し嘲りの口調で、「ですけど大變氣取て被居るぢやありませんか——目をくるく／＼やつたり、胸のところに手をあてたり……あんな身振は全くおかしくて、大變へんですわ。あれぢや役者かと思ふ方もござんせう」。

英吉利人は正式に招待を受けた節には、頓て何が出てくるか承知してゐるから、個人の家の音樂に對しては斯んな見解を有つてゐる。即ち、ピアノの音は雜談の相圖だ、と思つてゐる。一曲濟むと人々も話をやめて、「有り難うございました」とその奏樂者に禮をいふ。

そこらの事情に通じてゐる「ボンチ」雜誌は、ボグロブフスキ君がピアノに憑つて一曲を奏する圖を描いてゐる。人々が雜談に耽つてゐるのを見てボグロブフスキ君は手を止めてその家の細君に言つてる——「お邪魔になつちや濟まんですから、お話の興を殺がないやうに致しませう」。「いえ、如何致しまして貴方、何卒お弾きなすつて」と

ボンソンビ・ド・トムキンズ夫人が答へる圖面だ。

三三

けれども又公開の演奏は秀逸なるもので、聴衆も常に多數集まる。世界的著名な歌謠者は皆倫動で聴かれる。硝子宮の樂伴は完備無缺のものである。セント・ゼームス^{ホール}の古樂の通俗演奏、リッチャー演奏會、アルベルト・ホール、カエント・ガーデン、フローラル・ホールで期節間^{シーズ}における演奏などは他に比類無き立派なものである。是等の場所ではバッチ、ニルソン、アルバーニ・ヨアヒム、ルビンシュタイン、シャル・ザルレ、フォール、ニコリニなど名手の樂を聴くことができる。

扱茲は大抵にして通過^{こほつ}て、次の面白いところへ進まう。

斯ういふ演奏の場所ではジョン・ブルは熱心になつて耳を澄ます。軀中を耳にして聴いてゐる。それに如何してボンソンビ・ド・トムキンズ夫人の招待の席ではジョン君

耳を貸さなかつたらうと諸君は怪しむだらう。その譯といふのは斯うだ—ジョン君斯んな公開の演奏會では一ギニー乃至半ギニーの貨を取られるのだから、その正に取られただけの貨の唸り聲を賞翫するのさ。

聖樂(オラトリオ)といふのが英國では繁昌する。面白いもの、有り難いものとジョン・ブルが兼々待つてゐるのは此聖樂であつて、聖典の題目を音樂に合せた是れが好きなのだ。棧敷における彼を見よ(吁、聖物濫用—と僕は此座席^{ビュ}を見ると言ひたくな(身動きもせず、丁度説教を聴く時のやうに目を瞑つて、一語一音も聴き漏らすまいと専念一向だ。幸福な愉快らしい顔は、まるでお寺詣りして、有りがたい説教を聴いてゐるやうだ。聖樂はジョン・ブルにとつて、彼を未來に待てる歡樂の味利^{おじき}をするやうなものなのだ。硝子宮では五千人の歌伴^{コーラス}が聖樂に合せて謠ふ。人數の多いほどジョン君は嬉しがらる。この神聖なる音樂を聴いてゐた自分の側の一英人は、嘆美の聲をあげて言つたことがあつた—「吁實に—音樂は伊多利が可いですが、併しながら聖樂

三三

にかけちや英人の歌謠者に限りませぬ、な貴方」。この説には自分も全く賛成だ。饅頭ペイストを拵ベイクえるには捏粉ペイストでなくちや陀目ペイストなのと同じことだ。

それは全くのところ此聖樂の中には立派な文句があつて、その大部分はハイドン、ヘンデル、バハ、メンデルスゾーンといつたやうな人達ペイストが書いたのである。だが是等英國の聖樂歌の大概が是等名近の手になつたのは寧ろ不思議だ、恐らく何かのせいで是等の人の氣分が變になつたその影響だらう、是れはテムズの川霧を音樂の中に詰込んだのだ。

聖樂は一つが三時間乃至三時間半續く。地方の、プリストル、ヒヤフォード、リイッおよびバーミンガムなどの大音樂祭には聖樂が一週間のあいだ毎日奏せられる。先づ「創造」の歌から始めてすつと終り迄行り通すのだ。エーブラハム、ヂョセフ、イリヂャー、ヂマダ・マッカブー、救世主、アンチオクの殉教主、英國のオフエンバハ、アーサー・サリワンの作だ。それからバッション、聖ポール曰く何曰く何。バイブル

全体を音樂にかけて了はないと英人は堪能しないのだ。

第二十一章

新聞業—廣告—新聞記者—「タイムズ」—「ポンチ」—新聞發行の自由—英文學—小説—美術家—
グスターヴ・ドロー。

新聞は倫動のみで三百五十種ある、内五十ばかりは宗教問題とその報道に盡してゐる。「クリスチャン」、「クリスチャン・ワールド」、「クリスチャン・ヘラルド」、「クリスチャン・クロニクル」、「クリスチャン・イーラ」、「クリスチャン・レヴュー」、「クリスチャン・グローブ」、「クリスチャン・エージ」、「クリスチャン・ユニオン」、「クリスチャン・ライフ」、「カトリック・ワールド」、「プロテスタント・タイムズ」、「プロテスタント・スタンダード」、「ユニヴァース」、「バプチスト」、曰く何、く、今に語彙ヴォカブラリーが盡きて了ふだらう。

「デーリー・ニュース」、「スタンダード」、「デーリー・テレグラフ」は二三の例外を除けば毎朝白銅一個のおごりを爲し得る凡ての英人の手に取り上げられる新聞である。是等の新聞は大幅の紙數八頁、一頁七段或は八段のものだ。内五頁は全く廣告に貢獻されてゐるがその理由は、英國では何事も廣告に因つて得られざるなしといふ有様だからである。諸大學、諸會社なども規則上、是れ／＼の位置に缺員があるといふことを世間へ知らせるには、新聞の廣告に頼らざるを得ないのだ。例へば斯んな廣告を見かけることがある——「倫動大學。——サンスクリットの講座缺乏。俸給多額。候補者は何月幾日當日或はその前日本人自身、證明書持參來談之れ有るべし」。

誰でも自分の思ふことを廣告する。「教授、新聞記者、著作家、家庭教師、料理番。情夫までが新聞を以て不貞の妻妾、むら氣の情婦に訴える。特に人目につくやうに情夫情婦間の廣告は第一頁の第一段に出てゐる。僕は頗ぶる悲痛傷心の愁訴文を茲に引かう——「ゼー・シー・ケー女へ、エー・エムより。可愛い人、もう私にやきもきさせない

でお呉れ。私はもう食事も咽に通らない、夜も寝られないのだ。たとへ如何なことがあらうと私はお前を容して可愛がつてやる。歸つておくれ、歸つて」。次のは少々ロマチックの度が低いが——「キリヤム・エフ・アールへ。貴女は何故私との約束をたがえたんです。私は死んぢまふほど貴女に面會したい。何卒従前の私の町名番地宛で爲替を送つて下さい。」

僕が今話してゐる日刊新聞は何れも非常に大規模な新聞である。通信および時として驚くべき巨額を投ずる電報は大陸發行の紙上に現はるゝものとは雲泥の差あるものだ。大陸發行の新聞は大概政治家の機關であつて、その社説は即ちその人の政見である。「スタンダード」は保守黨の機關、「デーリー・ニュース」は自由黨の機關である。しかし是等英國の機關新聞に表はれる通信及び電報は、巴理發行の新聞上のものに勝ること萬々なりといへ、社説論説は遙かに後者のものに劣つてゐる。大政黨の大立物は乾燥無味、嚼蠟的の文を草する文章家は無い。

新聞發行の自由なるお疵で、英國では新聞が恐るべき勢力を有つてゐる。と同時に、新聞記者その人は決して佛蘭西における如きオーソリチーではない。社説論説には署名してないから社員以外誰も、「タイムス」或は其他何新聞の記者の名も知つてはゐず、又知らうともしない。

世界新聞界の總大將は「タイムス」で、一日分十六ページ中七ページは廣告——一部の定價三片である。その聲譽その影響の甚だしく買ひ被られてゐる此新聞は何政黨にも屬してゐない。著者の一友人は此新聞のことを、キイ／＼軋りたてる古る風信機だと言つたが、成程毎日その毒汁を世界の四方八方に投げ滾して居るので、大陸の諸新聞は恐れ戰慄いて、「是れタイムスの言ふ所也」、「是れタイムスの所論なり」と叫び立てる。「タイムス」は歐州各國の秘密は勿論、メゾン・ドレーの秘密をすら知れりと僭上を言つてゐるが、その警察種と廣告とは實は儲けの目的に過ぎないので、若し何か趣味を有せりとすれば、それは大銀行員の趣味である。社會的位置を探してゐるゼローム・バ

チュロット黨は「タイムス」の廣告頁を讀書室、俱樂部、その他の公開場で、穴のあく程見てゐるが、それを除けば、多數の人は此毒のある、ペダンチックな、他を黜り苛む新聞を讀みはしない。

倫動發行の大諷刺新聞「ポンチ」は、滿幅滑稽と諷刺とを以て成れる小型の週刊物で、よく文雅を失せずして機智の妙を弄し得らるゝことを證明してゐる。滑稽挿畫が巧くて、その至境に達したものは、母子對座して見るも何等の憚るところは無い。僕は手當り次第に一例を上げる——「ねえお父さん、お父さんはそんなになつても毎日大きくなつてゐるの？」是れは父の禿頭が驚くべき比例で廣く大きくなつて行くのを見て小娘が尋ねたのである。父「そんなことは無いよ、何故だな」。娘「でもお父さんのおつむは見るたびに毛の中から出てくるもの」。更に進んでは政治の諷刺がある。當時政府の宰相であつたビーコンスフィールド卿が、ザンジバル王を倫動に迎えた時言つた。「今や王は文明國民の状態を知り給ひたれば、王歸國せられし節は、早速奴隸賣

買禁止令を布かれたし。」王「朕は力の及ぶかぎりを努むべし、只卿に一言せざるべからざるは、朕が國には保守黨の勢力甚だ大なる一事なり。」

そして又大政治家連の滑稽畫が巧い。「ポンチ」子はこの材料を巧みに取扱つて、それを一切自店の商賣のもとでにしてゐる。その滑稽は大自由自在を極めつゝも、無邪氣にして毒氣なく、何人も善意を以てその文を讀みその挿畫を賞翫せざるを得ない。

英國の政府は新聞發行に全然自由を興えて何等の制限をも置かない。新聞は萬事を論説し萬事を批評する、そしてその文章は極めて露骨でその調子は極めて激烈—是れ決して稀れなることではない。或は苛酷に失する裁判廷の宣告、或は寛大に過ぐる刑罰、又は立法上行政上の行爲等は、總て嚴密なる新聞批判の關門を通過せざるを得ないのだ。新聞上の判斷決定—として是れ神託的のものと考ふるを要せざるものは無い—輿論が最も權威ある裁判である。著者はまだ何人も新聞の自由に制限を設けよと英國に對して聲を上げたのを聞いたことがない、自由國に於ては言論の自由は人民の

主權と對立するのである。

嚴正に言へば新聞紙條例違反は一つも無い。新聞紙上で冒した罪は普通の法律違反として取扱はれて、同じくその點で刑罰を受けるのだ。

英國では誰でも皆讀書力があり、そして讀書する。哀れ慘めな田舎の靴直しでも小さい書齋を有つてゐる、少くも小座敷のテーブルの上に數冊の書物を載せてゐる。勿論倫助の貧民窟は例外であるが、此貧民窟内の住民は英國何處如何なる田舎山家にも他に見るとの出來ぬ一種特絶の人間なのだ。佛蘭西では勞働者の俵ですら自分用の奠祭經ミサカを有つてゐるが、それは羅典語のものだ。是れが此俵に何の役に立つのか知らん。英國では此種類の男女が平易で而かも立派な文章のバイブルを皆備えてゐて、繰り返し繰り返し讀む。

佛蘭西中流社會に藏書家の無いのは驚くべきことだ。勞働者の間には赤表紙的の草

双子や小新聞の挑發的小説が讀まれる。吾が佛蘭西の普通の市民ブルジョワがその心の糧とするのは此種の文學である。英國では誰でも—僕は再び云ふ—書齋があつて、且一般に貸本所と一年一ギニイの金高で豫約して、消化することの出来るだけ小説を詰め込むのだ。

過去三世紀間英國は文學的記念物を續出したが、是れは只古希臘と佛蘭西のみが嫉妬心無くして賞讃し得るモニュメントで、英國文壇は實に文豪の競争場裡であつた。詩界にあつてはチョーサー。沙翁—是れ久遠の詩聖、スペンサー、マロー、ベン・ジョンソン、ミルトンは是れその音古今に響く諧調ハイモニーの發明家、ードライデン、ブライファア・ポープ、ゲー、ヤング、トムソン、バインズ、トマス・ムーア、ウォルター・スコット、カウパー、バイロン、シェレイ、キイツ、テニスン。歴史及び哲學界ではベーコン、ロック、ギボン、ニュートン、アデソン、スキフト、ゴールドスミス、サミュエ

ル・ジョンソン、ヒューム、スモレット、バーク、ハラム、マコーレー、グロート、カーライル。小説ではフィールディング、スターン、クーパー、ウォルター・スコット、リットン、ヂズレーリ、チャールス・ヂッケンス、サッカレー、シャロット・ブロンチー、ヂョージ・エリオット。

エーンスウオースとアンソニー・トロロープとは丁度死んだ、だから是れから少時しばらくは文學休息の時—或は更に不幸ながら衰退の期と思つて可からうと思はれる。沙翁は到底人間の近くことは不可能と思はれた高さに達した。ミルトンは没韻句フランク・ウェアを完全にした。是等ゴッドの使者メッセンジャーは逝いて了つた。—もう二度と歸つて來ない。獨逸ではゲーテとシラー、伊多利ではタッソー、アリオストー及びダンテ、佛蘭西ではユルネーユ、ラシーヌ、モリエール、ゾオルテヤ及びキクトル・ユゴー—古希臘ではホーマー、エスキラス、ユーリピデスそれからソフォクレス—此あまたの文豪、半神的人物—彼等は救世主の如く天職を帯びてこの世に降誕したのであつた。其天職を彼等は盡して、

そしてもう再び歸つて來ない。

三言

近代の英國小説は、佛蘭西の小説の如く、^{イムプロビザル}蓋不然性の繪畫でなくて、日常生活の眞
圖書である。英のバルザックたるサツカレーは母國の貴族を描いた、他の模倣を許さ
ざるヂッケンスは中流の家庭と勞働社會とを寫した、^{ジョージ・エリオット}ジョージ・エリオットは人心の
解剖をやつた。是等の人々が筆をつけずに尙ほ書き残したと思はるゝ部分は極めて少な
い。英國の小説は概して青年の心を惑亂せしむるの愛なく、その手に委ねても差聞え
ない。英國小説に現はれたる道徳は、世の父母たる人の關涉することなく自由にその
子女に讀ませ得るものである。學校の生徒は沒收せらるゝの恐れなく、全く暢氣に小
説を學校に持つて行くことができる。佛蘭西では、教場のデスクの中にアレクザンド
ル・デューマ或は恐らくエルクマン・シャトヤンの小説すらを入れて置く生徒があつて
それを發見されると情け容赦もなく退校させられる。

英吉利人は美術に對して嗜好癖あり、その鑒識亦勝れたるものがある、それはさう
だらう、あの通りの自然の^{チチユア}嘆美家だもの、さうなけれやならん筈だ。^{ジョシユヤ、レ}ジョシユヤ、レ
ーノルツ、ターナー、ホガース及びブランドシーヤの郷國は現時尙ほ技能ある美術家の
一群を有してゐる。フレデリック・レートン、ミレーズ、アルマテデマそのほか澤山
ある。

繪を^か挿く才は佛蘭西人より英人の方が遙かに豊かだ。英國紳士の家庭には、家人の
誰かゝ旅行して作つた日記に大抵繪が挿んである。教育を受けた娘は誰でも風景畫の
スケッチをやる。吾がノーマンデイの海岸や小山の上で、手に鉛筆とパレットを持つ
た英人の婦人はよく吾々の見かけるところだ。

ベルメルやポンド街には繪畫館が澤山あるが、是等の場所は英國上流社會の往來す
るところだ。此繪畫館には繪の數は僅かに五六枚しか無い時もあるが、諸君は此所に
きて愉快なる一時間を過ごし得るのだ。一番人のよく行くのはドトレ繪畫展覽所であ

三言

は佛蘭西の畫伯ドーレ——其繪畫は筆力雄勁にして色彩生動以て世界的名聲を博し、その死は今尚ほ佛蘭西の痛惜するところである——は、英國で大變に鑑賞せられた。拙くところの宗教畫、「磔刑」、「殉教者」、「聖主昇天」、「ブレイトリウムを去る基督」、「見よ此人なり」、「基督ゼルサレムに入る」、「ピラテの妻の夢」などは十年以來盛んに世の注視を集めたものだ。

主なる繪畫館は左の通りである——

英國美術家館

倫動美術家館

ドーレ繪畫展覽所

ダルキッチ繪畫陳列所

佛蘭西畫陳列館

グロスヴィノア陳列館

閨秀美術家會

國立繪畫館

國立肖像畫館

王立美術館

南ケンシントン畫館

水彩畫家美術館

水彩畫家會院

是等の美術展覽場は一年中公衆に開放してある。少し劣つた繪畫館はまだ澤山あつて、そこには一年の中或る少時期の間のみ入場を許されるのだ。

第二十二章

三六

大公立學校—教育—小學生徒の俱樂部—校中の英雄—競技運動—牛津大學—劍橋大學—論理街—俱樂部制裁。

青年の精力を發達せしむること及び、自由と信任とを以て彼等に正義の愛を培養せしむること、是れが英國著名なる小學校の二つの目的である。是等學校は人間を教育することを欲するが併しながら就中人間—精神と身軀と共に健全なる毅然たる丈夫を養成せんと思ふのだ、聰明なる精神は壯健の身軀に宿る。

かるが故に軍隊組織は採らない、澤山の新鮮なる空氣、野外と自由氣儘の遠足—是れだ。良心と輿論以外何の警官、何の番犬。生徒は何れも課業の時間或は食事の時間に丁どその場所に在るものと思はれ、又各その場所に居る。英國の小學生徒が怠情をかたく誘惑が何であらうか、放課後は勝手なところへ行つて勝手なことをして差し支えないのだ。吾々佛蘭西の籠の鳥は、門衛の目をかすめて安煙草を買ひに、向ふ側の

煙草屋に駆け込んだ時は、宛然傳奇物中の大英雄なるかの如く感ずる。そして歸つてくると仲間友達がウチヨ—寄つてきて、吾々が瞬間に吸入した自由新鮮の空氣を微量なりとも嗅がうとする。けれども英國教育會の重なる中心には決してシガレットは見かけない。喫煙の嚴禁せらるゝこと尙ほ已が佛蘭西の如くであつたら、英國でも亦直に流行物となるのだらうが……。何となれば喫煙が人を誘惑するのはそれが一種禁制の果實の香を放つからで、氣儘勝手にさせて置けば直、何のヘンテツもなくなつて了ふのだ。

イートン、ハーロー、ラグビー、マールバロ、ウェリントン等のあらゆる最大のスクールは田舎にあつて、構内敷地の代りに校舎の周圍には公園やら畑地やらがあつて、規則正しい小都會を爲してゐる。斯ういふ建設物は倫動には只五つ—セントポール、ウェスミンスター、クライスト・ホスピタル、マーチャン・テラー及びシチー・オブ・ロンドン・スクール是れだけだ。この中でも最初に上げた學校は來年郊外の、廣

い／＼廣つ場に移されることになつてゐる。

校長は年俸五六千を取つてはゐるが、しかし近づき難い権力者ではない、どころか、全然之に反して、個人的に各生徒を承知してゐる——々生徒の面を見覚えてゐる。生徒は面を見覚えてゐるばかりではない、今でも下級の者は學校で笞打たれる——笞罪を科するのは校長の一の特權なのだ、だから、手に餘る梳白者は皆校長のどこへ引つ張られてこの罰を食ふのである。佛蘭西リセーの校長は、生徒に自ら棒打を食はすほど身を下してかゝらうとは思はぬとテーヌ氏は言つてゐる。それはまことに結構なことだ、が萬事實際フランクチカル的なのは英人である。佛蘭西における如く些少の校則違反に對しても生徒を放逐して了つてはその將來をあやまらせるものだ。英國では赤揚イヂの棒で二つ三つ毆かれれば、それつきりで後に何事も無い——その罪を罰してその人を悪まざるものだ。生徒はそれを威張りはしないが、不面目な目に逢はされたとは思はない。この所罰法は概して効果がある、罰せられた生徒は我が教師の恩寵を恢復して、そして

何處を風が吹いたかといふ風に勉強を續けて行く。

公立の諸學校生徒は年長者だからといつて特別の恩典に預ることもなく、又異常の陸進を得ることもない——この賞典を受けるのは佛蘭西の鈍物に限つてゐる。英國では生徒の智識がその級不相應に進んでゐる場合には、校長は是れをもつと高級に進める。佛蘭西の文クラスト・レトリック科に相當する英國小學の第六級に十四歳又は十三歳の生徒すらゐる。佛蘭西にはユークリッドの第一巻を知らぬ高等數學科の生徒、文法の語尾變化をすら知らぬ文學科生がある。こちらの國では一級の生徒数が二十五名乃至三十名で、それ以上は無いから、教師は各生徒に周到なる注意を注ぐことができる譯、又實際注意深く、従つて生徒は皆修學上實益が得られる。

佛蘭西中學リセーの級別は、ソルボンヌ大學の大競争試験に應ずるための技能卓抜の學生十名より成る一組と、兎に角講義レクチュアに隨いてくることのできる二十名内外の一組と、及び到底ものにならぬ、見限られた、御當人も見限つて何の勉強もせぬ、只ぼんやりし

てゐる五十名の一組で出来てゐる。

英國では中小學の餓鬼大將梳白小僧が、お互ひに種々雑多の下らぬ詰らぬ悪戯冗談をし合つて、そのため怒つたり腹を立てたり、泣いたりすることはないが、著者はその昔隣席の生徒にインキをつけさせて貰つた禮として、例の文學科で、「アタリイ」の何百行かを寫してやつたことなどを記憶してゐる。

英國では利發な學生は少しもその教育費を兩親に仰ぐことはない。さういふ生徒は競争試験で容易に學術優等生となれる。卒業するとその學校から四年間、一年八十磅乃至百磅の貨を貰つて、それで牛津或は劍橋大學に這入る。同時に又自分の好める大學で他の學術優等生試験を受ける。斯うして四五年の間に二百磅内外の貨を取る。公立學校には各獨個の収入があつて、校主會で整理して行つてゐるのだ。凡て是等高等教育を受ける學校制度はそれ自ら主人公で、おの／＼他と關係なく、獨立である。

公立學校の生徒はその間の仲が大變好い、佛蘭西のやうに鈍物だからといつて除け

物にされることは無い。他方又英國學生の立物^{ヒト}は首席の生徒ではなくて競争の妙手、運動の名人が全躰のヒーローだ。貴族子弟の教育學舍たるイートン校では、ヒーローは第一門閥の子、次は金持の忤だ。見下されるのは給費生か、さなくば最も學術優等の生徒で、更に貶黜されるのが即ち首席の生徒ださうだ。佛蘭西の生徒は、サルボンヌの大競争試験に賞を得た優等生に對しては、その側を通る時常に脱帽の敬禮をするやうであつた。

各のスクールにはその俱樂部がある——闘技俱樂部、フットボール俱樂部、クリケット俱樂部、討論會などがある。是等の會合はすべて會長、庶務會計方および書記があつて、更に間然するところが無い、校長及び教師は名譽會頭および副會頭だが、會に出席するのは通常學生ばかりだ。學生の一人が會頭を勤めて、完全に、秩序正しくこの小國會を全く支配する。書記は會の記事を記録して、次回開會の劈頭その詳細を

報告する。討論會には文學、政治、社會に亘つて凡百の問題が滔々として論議せられるのだ。著者は一日セントポール校を訪問してこの討論會の、次回に論せらるゝ宿題が、「婦人權問題—婦人は共和政治に於て參政の権利ありや否や」といふのであることを知つた。この論議に關する賛成、反對兩論者の姓名も揭示してあつた。その議論が濟むと會長は賛否の投票數を勘定するのだ。少年の徒は斯くして早くから我が意見を發表し、公然論談し、以て他日衆議院の花形となる習慣を養成されるのである。是等の會で粗暴な言、不當の語を吐く者は一人も無い、靜肅に而かも堂々として萬事を進めて行く。開會は校長教師の下校してからであるが、全然生徒を信用して何等の監督をも附けず、一人の警官も臨席しない。完全なる一政府である。規律を維持するのは市民の掌中にあるのだ。

大きい學校では何れも雑誌を發行してゐるが、それは上級の最もこの事務に適した

生徒の受持だ。是等の定期刊行物は實際趣味豊富—學校に關する總ての報道、諸部諸會の記事、文學の論評及び詩を載せてゐて、それを生徒と校外學生が讀むのだ。校外學生は又その身を置く部處の現況を消息する。斯くして是等の校友會誌はその校出身の先輩の間に和煦なる交誼を保つて行き、且、過去現在の校友間に團体的精神を鞏固ならしめて行くのである。

概見して、競技運動には餘りに多く重要な意味が付けられてゐるやうに自分は思ふ。恰も競馬における如くその双脚と双腕とに課せらるゝ競技の重要事は果して讚嘆推奨すべきものか、如何か、著者は何とも斷言し得ない。

体力の發達、筋肉の練磨は賛成である、併、著者は競争を職業とする人と、普通の運動家の間には界限を付けたい、そして僕は寧ろ乗馬の方を可とする。種々の遊戯は大概甚だ危険な性質のものである。フットボールは野獸に相當した亂暴のゲームである。諸君自らその光景を描いて見給へ。—大きなボールの兩側に各十五人宛の倔竟漢

が、押し合ひ衝き合ひ、上になり下になり肋骨を折り頸骨を挫いて片息になる危険を冒し、衣は裂かれ肩は傷つけられ、血と汗と泥とに面を汚して各々敵陣の決勝標に向つて一大ボールを蹴込まんとせる様、一敗北に比しては何物も物の數ならずと双陣眩みながらも身内の兀奮に血眼をギラ／＼光らす様は如何だ！或る大きな、學校一の羅典語學生で、丁度他校の競技者十五名を倒した頑丈な青年が自分に話した。「面白いゲームです貴方。實は吾輩も大に苦闘したですが、兎に角打破つたです。奴等は吾々の敵でないです、到底吾々と勝負は争はれんです」。

男子も女子も數百の見物が競技場の周圍に蟻集して叫びたて、おらび立てながら競技生を喝采し鼓舞するのだ。學校生徒以外の者も彌次馬となつてこの野獸的競技に夢中になる。紳士、軍人—あらゆる英國の活動家が皆フットボールをやる。

フットボールとクリケットの二つは英國の國民的競技で、前の者は十月の初めから翌年四月の初めまでにやり、後者は四月初めから十月の初めまでやる。クリケット

トはフットボールより手軟かな競技で、法則をのみ込めば大變面白いものだ。一方はグラウンド場に立てた三本の棒^{スタック}を狙つて革の毬を打ちつけると、他方の敵は平たい棍棒^{クラブ}で是れを受とめ折返してその毬がこの敵の男の後ろにゐる者の手に這入らぬ中に、先方にある棒の後ろを廻つて出發點まで歸つてくれれば可いのである。斯ういふ競技が青年英人を夢我有頂天にさせる競技である。怪我あやまちは甚だ頻繁であるが、併それでも吾が學校^{カレッジ}の學生が「ナナ」を読み耽つたり、よく淫猥な話したりするのよりはましだと言はなげやならぬ。

英國の少年が如何の程度まで信任せられてゐるかといふことを示す爲めに著者は教師が屢々或るクラスに與える訓言を引かねばならぬ。「貴方は字書や文典を使はないで明日までに此翻譯をやつておいでなさいよ。獨力で何れほど貴方は出来るか試みたいのですから」。校長は決して生徒にあてた私信を開封するやうなことはしない。斯く

生徒に對してその少時から信任を置く結果としては、英國の少年は十五歳にして既に成年者の如く一身を處置することを心得てゐる。英人のこの放任教育主義は生徒の狡計猾智を殺滅する上に効力がある。當局者は聲を厲まして叱ることをせず、面色を變じて怒ることをしない。そんなことをすれば却つて生徒を意地ッ張りにして、此方のツポにはまつて先生は怒つた、怒つてくれればもう此方のものだ、生徒はそれを奇貨措くべしと考えるのだ。我を抑ふる威權——彼英人獨得の^{フーチュール}德たる自制克己が學校教師に取つては最もエツセンシャルの性質のものである。彼小學生徒といふ情け容赦もあらくれ小僧に馬鹿にされる教師の位置ほど美ましくないものは無いと僕は思ふ。それは畢竟するにその人の腦神經に不幸なる影響を與えるだけだ。著者は過日新聞で、一生徒の無禮と嘲笑の爲めに受持教師が短銃で自殺を企てた珍事を讀んだ。僕は實にその餓鬼つ子を射殺してやりたい。

以上重なる公立の諸學校を僕は筆をつくして溜々賞揚したが、英國の二大最高學府牛津劍橋、わけても牛津大學に就いて、諸君にその概念を傳えんにはこの上如何な言葉を使つたら可からうか。數百年來の二十分科と、博物館と、豊富なる圖書館と、庭園と細徑と、榛々たる枝葉に掩はるゝ巨樹と、^{キツナ}常春藤、^{スイカガシ}忍冬などの蔓性植物に纏繞さるゝその塔閣、伽藍の本堂の如き長い木蔭道の中に在る牛津大學——その周圍の風物すべて古代的の森嚴を示して、吾人の胸奥に詩文、學問及び安靜なる幽棲といったやうな念を^{インスパイヤ}氣呵するのだ。英國青年がその研究を完うするのは自然が吾人人間の視覺に與えたるうち、最も豊かなる萬緑の裡、大柏樹の蔭の、その石材——として由來と歴史とを有せざる無き神聖端嚴なる、その四壁の内である。この大學の印象深き光景を目睹する毎に吾人は記憶を吾が佛蘭西に返さざるを得ない——吾が貧しげなる、寂しき、黒き寒きソルボンヌ大學を、——羅典街の見る目いふせき下宿に跼踏せるその學生を想見せざるを得ない。

牛津の町には汚名を諂はるゝ婦人は居ないといふことである。學生監督の任にある人はよく知つてゐる、その下に在る青年學生は危險或は誘惑に煩らはされざる自由を享樂してゐることを。勉強時間以外は學生は大學の大俱樂部—ユニオンにゐる。ユニオンには學生の必要物が悉皆備えてある—讀書室、珈琲店、玉突場、圖書室、庭園、それに一大ホールがあつて會員の一人を會長として此所で時事問題を論議するのだ。夏は川に行つてゐる、その所屬の分科の徽章と共にボート服を着けて數百のボートの中にゐる。

牛津大學の生活には費用が餘程かかる、學生は年三百磅以下では、とてもやつて行かない。けれども前申す通り聰明なる學生は所屬分科の貨と出身學校で手に入れた貨とを以て生活して行くことができる。

牛津の町に所藏せらるゝ種々の寶物珍品のことを書き立ててゐては、一冊の書を作成すも尙ほ不足だ。ボドレー紀念圖書館だけでも多大のページを貢獻することになる。

我が佛蘭西第十一世紀の國民叙事詩シャンソン・ド・ローランの最古の寫本が藏してゐるのは此圖書館だ。當時の巡遊詩人達トルバドールがその衣囊中に納めて謠ひ歩いたこの貴重なる古詩の書卷を手に触れる特權を著者は有つてゐたのであつたが、それを抜いて見た時は、僕は深い感慨に打たれざるを得なかつた。

牛津大學は今日でも宗教上の問題に就いては偏執偏見の中心たる名譽を有してゐる。「死んだ國語と死にきらぬ偏見で名高い牛津大學」とジョン・ブライト氏は言つてゐる。劍橋大學はもつと自由で、且貴族的のところをもつと少ない。ラティマーとドリートを火炙りにしたのは牛津大學の人である。是を以てマコーレーは非難の聲を上げて言つた—「是等の人物を造つたのは劍橋大學で、彼等を火刑に處したのは牛津大學である」と。但、マコーレーは劍橋大學の出身たることを附言して置かねばならぬ。

牛津大學は紀元第九世紀にアルフレッド大王の創めたものである。劍橋の設立亦中

古時代に在る。英國には他にも澤山大學がある——倫敦大學、デューラム大學、マンチェスター大學その外にもあるが、是等は近代の設立であつて、由來久しき前記の二大姉妹大學の盛名を恣にすることはできないのだ。

牛津、劍橋兩大學は英國偉人の保育所であるが、二校中その何れがその多數を養成したかは斷言し難い。兩大學間には完全なる調和ハーモニーがあつて處世上及び聲名上互ひに相激勵してゐる。英國々教會の牧師は皆牛津か劍橋かに學んだ人だから、その人たちは博學の士で、同時に又完全なる紳士である。是等の人は結婚して社會の有用なる士となる。青年牧師は大に上流者間に愛撫されてゐる。だから、只是れと思ふ娘に狙ひをつけて手巾を投げさへすれば、娘はわが所有ソウとなるのだ。

この兩大學の人は一年に一度、復活祭の前週の土曜日公衆の前に出て倫敦人士の歡迎に報ひる。牛津對劍橋のボート競争會は、ダービーの競馬に次いで賭博社會の大切なるものである。一週間のあいだ誰も彼もその釘穴ボクシングホールに濃緑のリボン(牛津方の徽章)や、

淡青のリボン(劍橋方)を挿む。競漕の場所は倫敦附近のテムズ河上だ。二艘のボートを漕ぐのは兩大學おのゝく八人の、すぐりにすぐつた漕手で、その漕手は數月間特別の、難儀な練習をやつてゐたものだ。

他の公立學校同様この大學でも評判の高いヒーローが最善の漕手、クリケット選手及びフットボールの運動家である。フットボール、クリケットおよび玉突の會はこの兩大學にもある。

大なる公立學校及び諸大學の討論會は英國第一流の演説家の大部分を作つた。カンニング、グラントストーン其他數百の士はその處女演説を彼のユニオンでやつたのだ。我立法行政の政治的會合に秩序と禮節とのレッスンを與えた是等諸學校の集會は以前牛津市の、ロヂンクレイン論理街と呼ばれて、今日尙ほワッドム分科大學附近に見らるゝ一小巷路で開いたものである。其處で互ひに敵者は哲學の重要問題をよく討論したのであるが、

その敵方を論破することが出来ぬ場合には互ひに撲り合ひをやつたものだ。この處決法を腕力制裁—アルグメンツム・バクリヌムと言つてゐた。アディソンは曰く、「是等の論争的會合に彼等の採る方法は、先づソクラテスに従つてその三段論法を行ひ、その後は、兎に角に反論者を感亂せしむる迄各自の俱樂部に引き摺り來るのであつた」と。是は吾々に彼の歐羅巴の大學が希臘トロヂャン兩黨に分れてゐた時のことを想ひ起さしめる。トロヂャンは希臘語に對して深怨を懷いて居たのである。エラスムスは一日不幸にしてトラヂャン黨の手中に落ちたが、その時敵黨はエラスムスを毆打して街上に放棄り出して置いたことがあつた、とはエラスムス自身の云ふところだ。

第二十三章

私立學校—便利なる教師—教員周旋屋—商賣上手の校長—著者の懷舊談—席巻がれりといふは
席無しの義にあらず。

法律家となり、醫師となり、官吏となるにはそれごとく試験に及第しなければならぬが、學校長となるにはそれは全く不必要だ。諸君は雜貨店を開業するやうに、同じく少年男女の學校を開業すれば可い。僕は事業に失敗した洋服屋が、近所に學校を開いたのを知つてゐる。が、先生中々巧くやつてゐる。町を歩いてみると何の町内にも一歩毎に門口に、「青年學校」とか「淑女學校」とか書いた眞鍮の招牌を見かける。教育は如何なる主權にも監理を受けない。學校は監督官廳の關涉外に立つてはゐるが、しかし是等の學校に入れられる生徒は概して完全に近い教育を受けて、遊戯の間も許されてゐる。兩親はその他の事には餘り頓着しない。

先日著者は學校經營者からその趣意書を二通受取つたから、それを少々引照してみやう。文体は原文の儘だ—こんな傑作の文章に朱を加へるのは聖物を冒瀆するものだらう。

「學資は極めて低廉、而かも學科を精選して完全なる教育を修得せしむ。

「生徒の試験は毎年七月師範學校の一教授を聘して舉行すべし、斯くして公私學校の疏通の便を圖るべし。

「有志の者には食膳を給す。但、小晝飯ランチ及び晝飯九片、茶四片。

「規定の科目は英語のみとす、佛語、音樂及び遊戲に就いては別に科外教授あり。

「本舎主は大に幼兒を愛撫するを以て、その入學年齢は一歳半より二歳迄の兒童を可しとす。

「父母の宗教には本舎何の關涉をも試みずといへども、バイブルは各自子弟に御教授之れ有るべき事。

「父兄をしてその子弟に修業時日を空費せしめず、直ちに試験に應せしむるの便宜を圖り、學期中途入學するもその入學當日より起算して一學期を修學せしものと認定すべし。着實完全に教授を施して、試験準備の俄詰込は決してせず。」云々。

第二の趣意書には生徒の遵守すべき戒則が附けてあつた。この戒則の條項は、動詞

の各テンスの練習にする爲めらしい。諸君自から御覽なさい。

第一は未フューチャー來ア・ナ・チ・ス時スで書いてある—

「一、六時のベル鳴らば即時起床すべし。〔Will get up.〕

次は設若コンディション的だ—

「五、若し食事の時談話する者あらばブツチングを給與せざるべし〔If you should...

... you would not.....〕

次は接サブジャンクティブ續ス法だ—

「十四、教場又は食事中は必ず頸巾を着用せんことを要す〔..... You should.....〕

最後として命令法イムペラティブがある—

「二十、不快の節はエッチ夫人のもとに赴くべし。(エッチ夫人といふのは學校長の

細君のことである)。

僕の知り合ひの一女教師が借家の門口に「女子修學館」と書いた招牌をかけておい

た。すると家主の大工が鋭い権幕で早速談判を持ちこんできた。「今直此看板を取り外づして下さい。お前さん一人の住居として私はお貸し申したんだ。八釜しくて近所隣の迷惑にもなる、すれや此の家の品が下がつちまひます」。

「だつて貴方も貴方の門口に看板を掛けてるぢやありませんか」と女教師がいふと、「それやさうです。だが私の職は是れでも立派なものなんだ」。

町家の人達には「学校の先生」と聞くと可笑しくて馬鹿にしたくなるのだ。

教師、先生、お師匠様などいふ語は、その人達には貧乏者、零落者と同じ意味に推察れるのである。

何故さうか——此理由を英人は英國の教育に對して無頓着なることと、および是をチャールズ・ディッケンズの罪に歸してゐる。ディッケンズはその小説の中で筆を極めて學校教師の威嚴を貶したのである。しかし作家の意のある所はその實其處では無くて、學校屋を開業して少年を害ない、情け容赦もなく笞をあて、その癖御自身は長い黒の

コートと白い頸布を着けて威張り廻つて、みえを胡麻化す數千の無智文盲者を叩きつけやうとしたのである。が、併、ディッケンズの藥は少し利き過ぎた、そこで世間では學校教師とさへ言へばワックフォード・スクワイヤスと思ふやうになつたのだ。

諸君は左の如き廣告を日ごと新聞で見かけるだらう——

「料理人入用、給料二十五志」。

「英語、佛語、圖畫及び音樂の女教師雇入れたし、但し俸給一ヶ月二十志を給す。」
斯ういふ廣告に應ずる女教師は大概只三度の食事と無料止宿を受くるのみである——
「予が三兒の教育を引き受けらるゝ女教師あらば、上等の賄ひと部屋とを給與いたすべし」とだけで給料のことは一句も無い。

私立學校の校主は普通、學校教師周旋屋の手を経て教師を雇ひ入れる。

諸君が教師としての場所を（場所といふ字が實際使つてある）求める場合には學校周旋人に申し込むが宜しい。卒業證書も、證明書も要らない。識つてゐること、教へ得る學科を言ひさへすればそれで決着だ。

僕は一人の若い佛蘭西人が或日この種の周旋屋のもとへ申し込んだのを知つてゐる。すると周旋屋の先生は青年に言つた。「佛蘭西語のほかは、何か他の學科もお教へにならんぢや場所の周旋が難じうですがな。貴方圖書はお出来になりますか」。

「少しは出来ます。初歩の圖書なら教へられやうと思ひます」。

「初歩！」と周旋屋は大聲をあげて、「初歩なんて言つちや不可んですよ。貴方は圖書の教授がおできなさる、結構！そこで、ピアノは？」

「『月の光りに』ならやれやす、譜も少しは解ります」。

「結構！『マルセーユの歌』は？」こちらぢや『マルセーユの歌』をみんなが好みますが」。

「一本指でなら、やれませう」。

「素適に巧くやれるでせう、貴方には。宜しい、御周旋申しませう。今日先方の校主に書面を出しときますから、貴方は明日彼方へ御出發の用意をなさい」。

青年は翌日出發して行つた。随分奇態な會見だつたが、更に奇態なことは、この青年は實に巧く適合つたのである。

斯く申す著者も實は學校周旋屋とは多少の經驗があるのだ。十年ばかり前僕は或る周旋屋の媒介でヨークシャヤの然る學校長と會見したが、諸君も御推察だらう右の校長先生は一人の男を利用して實は先生自身が旨い汁を吸はうとしたのだ。

僕は此尊敬すべき紳士に（牧師の職にゐる人だつたから僕は斯ういふ）、予は英語に熟達したく思ふこと、生徒には佛蘭西語を教授しやうといふこと、多分の俸給は希望でないが、その代り自習の時間を少々與えて貰ひたいことなどを談じたのだ。多分の俸給は希望でない、といふ語を聞くと此尊敬すべき紳士はニコリとしたが、それは明

らかに満足の笑面だ。「では年三十磅上げませうと」先生は言つて「賄ひと部屋料は私の方で致しますから、貴方は洗濯屋の婆さんにだけお拂ひ下されや可いのです」。

「それで、私の職務は如何なことを致すんでせうか、失禮ですか」と僕は聞いてみた。

「私共は六時に起きます。生徒が服装を着ける間監督下すつて、それから八時の朝飯まで生徒と一所に教場においでを願ひます。朝飯が済んだら九時半まで生徒を散歩にお伴れ下さい。午前の授業は九時半から一時までお願ひ申ませう。お願ひする學科科目は希臘、拉丁、佛語に數學、それから圖畫、音樂及び舞蹈と是れだけです。英國歴史と地理は私が教授するのですから」。

ピアノとマヅルカを教へなければならんといふことになつたので僕は考えたが、併、まあ、それからと後を聞いて見た。

「一時に晝飯をやるですな」と校長は續けて話した。「二時から午後授業を始

めてそれが五時まで。五時になると茶にします。茶が済んだら又七時迄生徒を運動させて戴きませう。七時から八時迄は翌日の豫習を生徒にさせますから……。八時十五分になつたら麵麩か牛酪をやつて、八時半が生徒の就眠時間です」。

「いや、生徒はさぞ喜んで寝るだらう」と僕は心中で思つた。

僕は立ち上つて帽子を取りあげた、そして此のこくめいな時間表の製造家先生に謹んで暇乞をしやうとした時だ、學校長は僕を引きとめて莞爾顔で尋ねたのだ。「貴方は獨逸語も少し御教授は願はれますまいかな」。

「宜しいですとも、それはもう……しかし私が自炊をやる時間は一鉢何時ですか」と僕は聞いたが、此質問が先生の面上に如何なる影響を與ふるかは待たないで僕は此所を出て、二度と學校教師周旋屋を煩はすことはしなかつた。

その後數週間たつて、僕は無報酬で、一日に只三時間自習時間を支給されるといふ條件付で、さる學校の校長と約束して就職することになつた。一ヶ月で僕はその學校

を又去つたが、それは土曜日にはおきまりで酒に酔ひ潰れる校長の細君が、或日僕の顔にビヤの瓶を投げつけたからだ。

乃で僕は教鞭を取ることは断念して、一ヶ月八磅を出してさる學校の寄宿者となつた。此學校は大變評判がよかつた。佛語の教師をしてゐるのは瑞西人で、ビヤノは獨逸人が教へて、謠ふ方は伊多利人、そしてビヤノの調子を合せる人は數蘭土の男、何のことはない小規模のノアの舟だ。もうその時分は僕も大分英語に熟してゐて、數月後には僕の満足するだけには文章も綴れ會話はなしも出來た。乃で僕は退校しやうと思つてゐると、校長は僕の胸中を察したと見えて、一日僕を呼んで云ひだした。「貴方は大變に英語が巧いが、もう一層完全に修學しやうとお思ひになるなら英語科の生徒に佛語を教授なすつたら如何です。さうすれば更に英佛兩語の比較研究になるでせう。それに將來育英の事業に盡さうといふお考えなら、貴方には實に好都合の練習ぢやないですか。だからです、若し御希望なら現在の止宿料で、他に餘計な費用をおかけ申さ

んで此學校の生徒を練習用にお使ひになることは私が含んでゐませう」。

抜目無きこの狡猾校長の胸裡は容易に推察が付いた——瑞西人をクビにして佛語教師に俸給を支拂ふ代りに、此策畧で一ヶ月八磅の止宿料を此方から差し出す僕に代理兼務を勤めささうといふのだ。是れは見えずいてゐる、全く見えすいてゐた。

僕は我が母國語を一年三十磅で將に教授せんとしたこともあつた、又一年無給で教授したこともあつた。そして今は教授してやつて、それで此方から貨を出させられるといふ際どい目に逢はうとしてゐるのだ。僕の位置は日を追うて悲劇に進む。乃で僕は行李匆々引き上げて了つた——復デュニケール廻アンコールる身となつた。

是等の學校の下級教員は賤役者だ、佛蘭西人となるかわけて左様だ。何を措いても生徒の氣受けが宜くないといけない。若し教師と生徒との間に斯うと決心する事件が起つたら教師たるもの災なる哉で、そして遁げた生徒は容易に取戻されない——生徒吸引の學校間の競争が實に激烈だから。もし又教師の方が不幸にして職を退かねばなら

の機となること、後釜を狙つてゐる候補者がその日の翌日から十人も十五人も詰めかけて来るのだ。教師はそれを心得てゐるから梳白小僧の無禮失敬も胸をさすつて我慢する。生徒が教師を侮辱するか或は生徒の學術進歩せずとしても教師は苦情はもち出されない—あらゆる非難と攻撃は教師其人の身の上に落ちかかつてくるのだ。

校長自身が既に生徒におべつかる以外何等の能も無いのだ。校長が生徒の父兄に報告する學事通知簿は立派なものである。萬一、生徒何某、學術進歩の跡無し、とでも言はうものなら、父兄は自己の子弟を學期の替り目に退學させて了ふ。生徒何某は少しく腦髓遲鈍也と父兄に訴えてやると、それだからこそ月謝を出して學校に上げとくんだと、やりこめられる。

英國では生徒の學術の進歩が著しいといふと、手前の悴は利口發明でござるからとさまりで父兄に威張られるし、怠惰漢なまけもので出來が悪るいといふと、あんなやくざ教師に付いてるものだからと、さまりで又言はれて了ふ。

チャーレス・ディッケンスは「ニコラス・ニッケルビー」の序文に、私立學校論を爲して斯う言つてゐる—「英國における教育の驚くべき寛怠、善市民悪市民、不幸の人幸福の人を作る手段たる此教育事業を、政府の放棄して顧みざることには就きては、私立學校は既に久しくその顯著なる例を吾人に示しつゝあり。人世に於て他の職業には悉く其不適當を表せる人も、無試験無資格にて到處に獨り學校を開設することのみはその欲する儘なりき。(著者曰く、今でもさうだ)。外科醫に於ても化學家に於ても、狀師に於ても、屠殺者、麵麩焼き男、燭臺製造の職人すら、貴賤上下の職業に論無く、その企劃せる事業には總て一定の準備を要す。而かも獨り學校教師のみはその要求より除外せらるゝの恩典を有せりき。而して學校教師は抑も如何なる人物なりやと見るに、由來鈍物にして且如上の状態より自然的に發生してその中に繁昌し易き詐欺漢なりとはいへ、その最も下劣にして、育英機關中最も腐敗せるはヨオクシャヤの學校教

師なりき。彼等は生徒の無學父兄の無能には全く留意せずして、只是れ自己のみ貧慾飽くことを知らざる貨殖一方の學匠なりき。無識鄙吝、苟くも志ある者は犬馬に給與する食糧と檻房とをすら許すを肯んせざる底の半獸的人物なりき……予はヨオクシヤの學校教師に關しては過去時を以て記述したり。今日尙ほいまだ全くは是等の人その跡を絶たすと雖、而も漸次減少しつつあり。

至極のろくど、と著者は附言する。

僕の相識の或る青年佛蘭西人は、少々英語を研究し而して大に佛語を教授するため地方學校へ一ヶ月行つた——無給なることは申す迄も無い。右の男が彼地に着の翌日、近所の町の新聞に次の廣告が出た——「頗ぶる少費額を以て完全なる教育を授く。本校の教師は寄宿教員及び出張教授より成る。校主アール」。吾が相識の青年はその學校の唯一人の教師であつたのだ。が、寄宿教員だ、その校舎内に起臥してゐたから。そして又出張教授とも言へる、ホンの錢儲けに一寸出張してゐるのであるから。だから校長

の大袈裟な廣告には何もまるつきり嘘といふことは無いのだ。

英人は言葉使ひが喧ましくて揚足取が大好きだ。だから嘘を吐くことを知らない。僕は或日英國の一僧正と旅行したが、車中は一行吾々五人。或停車場に着すと、「五分間停車！」と大聲に呼ぶのが聞えた。すると僧正殿はあたふた其處に旅行鞆や帽子入れの箱や、小道具新聞雜誌と色々廣げ始めたのだ。ところへ一人の婦人が扉の口へ面を出して「此所に空席はありませんでせうか」と聞いた。

「場所はみな塞つてゐますよ」と僧正は答えたのであつた。

氣の毒の婦人は他の車室を探しに行つたので、その時吾々そこにゐた者は僧正に向つて、此室には吾々が五人しかゐない、だから一人分の空席があるではないかと、注意した。僧正の返事が斯うだ——「私は空席が無いと言ひませんが、塞がつてゐると言うたのです」。

第二十四章

青年政客—郷士—國會における大學生。

我が佛蘭西中學は軍隊的—僕は牢獄的と言いたい—施設のおかげで、生徒が共和黨、急進黨或は社會黨である。生徒は荒唐無稽なる自由を夢み、自由を欲して喘いでゐる。革命戦争時の英雄が生徒の崇拜する英雄なのだ。

噫しかし青年者の不平怨言は永く一所に停滯せざる種類のものだ。僕がまだ學生時代に眞赤になつて騒ぎ立ててゐた、幾多の急進黨が、今日では貞童文祭の市中行列に『我が爲めに祈れ』を暢氣に謡つてゐる。

家庭に於ても學校に於ても完全なる自由を享樂する英國少年は、嚴格なる保守黨であるが、是れは彼等の愛國心がさうさせるのだ。自由黨は革命を狙つてゐるとの評判であるが、扱、革命の必要ありと容すのは即ち英國の現状が完全なるものにあらず

といふことを認めるのだ。併し斯る有様なりと英國の少年に納得させるのは困難のことだらう。

諸君は英國人民が、「未だ學位を得ざる保守黨」と言ふのを聞くことがあるだらう。

是等青年の多數は貴族か或は郷士の息子たちだ。

勿論郷士と言へるものも知力の點に於て普通人以上の人間ではない、只その位置に感謝すべき門閥といふものを所有するだけである。彼等は今日明日を飲食と喫烟と遊獵とに暮らして、賃地代を取り立てゝゐるのだ。然るに世間には我等の幸福を喜ばざる人間ありと聞いて、彼等は驚き怪しんでゐる。—「何といふ足ることを知らん人間が世にはあるだらう」。同盟罷業があつたとか、革命が起りさうだとか新聞にあると、斯ういふ。「革命?この浮世は具足圓滿して、結構にできてるのに、と彼等は思ふのだ」

郷士はその領地内の旦那様である、無事平和のお代官たるべき者である。一人の乞食が郷士の前で、「旦那様、私も命が惜しうござります」と言つて、「一日身の言ひ譯をやつた。」

「そのやうな譯は少しも無いと己は思ふのぢや」と郷士は厚皮面を悪らしく思つて斯う言ひ返した。

牛津及び劍橋兩大學はおの／＼國會に二人の議員を出席せしめてゐるが、選出されて議員となるのは保守黨の地主か又は製造業者である。自由黨からも候補者として最も著名なる教授を送るのではあるが、併、自由黨の人はその選舉に殆んど耻づべき敗北者となる。その理由は斯うだ——是等兩大學の選舉者となるには三年間牛津或は劍橋に住居してゐて、そしてバチェラー・ラブ・アーツの學位を得れば可いので、その學位は又三年を経ればマスター・オブ・アーツに代はる——單に貨の買へるのだ。だから總て

地方郷士の青年子弟はバチェラー・ラブ・アーツの學位を得ると共に大學を去る。即ち一部の學生は其後も重ねて一等二等三等のバチェローアとなるのに、田舎に歸つて貨で學位を買ふ方の者は等級の差別がない。前者はプロフェッサーとなりパーリスターとなる、そして後年社會最高の位置を占めることとなる。又後者は乃父の財産領地をスルク／＼受け嗣ぐために家庭に入り或は教會に這入る。眞の學位を有する者と、學位買収家とは一と六との比例を爲す。

大學の選舉に於て保守黨(郷士或は製造業者)の候補者が斯く大多數の勝利を得る所以は茲に存す。

「英國の碩學にして牛津大學の名譽教授たり且堅實なる保守黨員たる士が一日著者に話して、彼は常にその母アルマ・マター校のために投票することを避ける、と言つてその理由として斯う言つた。「私は保守黨の候補者を好まないが、又自由黨の政見をも承認し得ないから」。

今一人、是亦大學者で、同じく保守黨員であるが、必ず自由黨の候補者に投票する士を僕は知つてゐる。「我が學界の最高主權府が、鈍頑なる郷士或は豪商を國會の代議士とするのは奇怪至極である」と斯う言つてゐる。だから投票の據んどころ無き場合には何時も此人は其一家の私見を犠牲にして、その大學の名譽を維持するのである。

倫動大學の學生は通例自由黨員の子弟であるが、その國會議員として選出するのは自由黨の代議士である。而して彼等は一般に碩學の士を選擧する。數年前はロバート・ロー氏が選出された。現在ではジョン・ラボック氏―彼の銀行經營者にして唯物論者たり慈善家たる氏がその一派の議員である。

大學の總長にして且學長たる人は公爵か、侯爵か或は伯爵かである。牛津大學ではサリスベリーの侯爵、劍橋ではデナンシヤの公爵、倫動大學ではグランヴィル伯爵が、それ／＼總長兼學長である。もし諸君が英國の貴族に生れ合せてゐたら即ち立法官、外交官、美術家、學者―何でも諸君の好きなものに生れながらにして爲れるのだ。

併、フィガロー時代には貴族は生れながらにしてギターを弾いた―この方が一層驚くべきことだろう。

第二十五章

宮廷―女皇陛下と宮家―親愛すべき獨逸諸皇子―政黨―貴族院―衆議院。

セントポールの宮廷は自己を尊貴顯著ならしむる方法として、その最も經濟的なるものを採つてゐる―是れを人住まぬ空御殿にしておいて威嚴を保つといふのだ。女皇陛下の倫動にあらせられるのは一年中二週日以上に上らない。一歳のうち四ヶ月間はバルモラルといふ、陛下の農民の裡に、三ヶ月はワイト島における極めて簡易なる田舎の離宮に、而してその餘日はこれをキンゾアに於て過ごさるのである。女皇は年二回の舞踏會と二回の演奏會とを倫動のバックingham宮殿にお催ふしになる。此宮殿今は人の住むこと稀れに、徒らに鼠兒の跳梁するばかりである。露西亞の皇后陛下

は千八百七十五年此宮殿に一ヶ月を過ごされたが、その間絶えず酷い痲痺症に悩まされた。總て接見招待の催しある節は皇太子殿下と及び花顔美はしき妃殿下とが、陛下の代理をさせられるが、この兩殿下は實に巧妙なる代理者の役を勤めらるゝのだ。御愛嬌ありて更にその勞をいとせられず、終歲、兩殿下は其處此處に成らせられて教會或は他の重要な建設物の柱石を据えさせられ又は病院、橋梁、學校、港市などを開かせられる。

皇太子妃殿下は既に殆ど御婚期にあらせらるゝ諸王子の御母君ではあるが、何日見奉るも變らぬ美はしき娘々しき御面ばせで、英國臣民崇拜の偶像である。諸君は殿下の御腕に猫兒を抱かせられ或はいはけなき御愛兒を脊にし給へる御肖像を諸所の店頭で見かけるだらう。殿下の如何なる御方かはそれを拜すれば合點せられる。斯の如き御面ばせであらせらるゝのだもの、いと善き御方と思はぬことはむづかしい。

著者は英國女皇陛下の御位ばかり欣羨に堪えぬものはこの世に又と無いと思ふ。大

國民の深きく愛着、三億蒼生の統轄、世界の中に最も美はしき王土、御心にかゝる雲とては殆んど翳ばかりも無く、飲くることなき御安固と夥しき御料、而かも毛筋ほどの責任も有たせられぬのである。

宮廷内は英國皇室と言はんより寧ろ獨逸の皇室である。女皇陛下は獨逸の諸親王に陛下の國に於て位置と場所とを與えさせられてゐる。獨逸諸親王のその本國にて見そなはずべき事は、宰相ビスマークが取り統べてゐるから、御懸念には及ばぬのだ。しかし他日皇太子殿下が萬乗の位に即かせられたら、今の有様に一變化をきたすだらうと思はれてゐる。女皇陛下はその御生子の女王を獨逸の王子のもとに婚嫁させさせられてゐる。御嫡女は他日獨逸皇后とならせられるだらう、お次のはヘッツス・ダルムシュタットの大公爵に御降嫁になつた(千八百七十八年薨去)。三の姫宮はデコンブルから皇室費を奉つるシュレツスキング・ホルスタインの皇子クリスチャン殿下と御婚儀になつてゐる。コンノート公爵はフレデリック・チャールスの王女と婚してゐる。そしてア

ルバニー公爵はワルデック・ビルモント皇女と婚してゐる。ワルデック・ビルモント女王に對しては英國々會より六千磅の歳費を奉つてゐるのだ。

その他の獨逸諸皇子は將校、提督、女皇陛下宮城の監督官などである。諸皇子は甚だ善良寛容の人で、決して何人にも害を加ふることなく、陛下の敵者をすら善意を以て見てゐるのだ。

しかし茲に最も人を震駭さする一人は女皇陛下の遊船ヨットの故船長レーニンゲン殿下である。殿下の職務は年四回、ソレント海峡を横ぎる二十分時間の航海にあるのだ。殿下は或る時白晝一帆船を乗り沈めて、爲めにその中に在つた三人は溺死したが、此經驗豊富なる航海家と、帆船が同一水路を取るとは不都合な奴共だ。この玲瓏鏡の如き海上のヨット操縦者は二千磅の歳費を受け、近年海軍少將に榮進になつた。

英國には二大政黨がある——自由黨及保守黨即是。その他は言ふに足らない。内閣更

迭の結果は數時間にして表はれる。新たに選舉された衆議院が、その取つて代つた以前のものと分子を異にしてゐれば、前の多數優勢が今少數劣勢となれば、女皇陛下は各大臣を更迭せしめて大臣職を後繼者に譲らしめるのだ。かゝる有様でデスレーリとグラッドストーンの内閣大臣は殆ど二十五年間に六年毎に更迭した。一内閣が六年以上勢力を保有することは極めて稀れである。ジョンブルは、内閣が熱心以て國事に當り、國民のために盡瘁した報酬として、折々その大臣を變改することが好きだ。

皇族の人は注意して政談を回避してゐる。女皇陛下の諸皇子は社會の統率者ではあるが併決して政治的の會同或は宴筵には出席しない。貴族院議員の選舉投票に、若し投票した爲め政黨の何れかに些少でも依怙最負があると推察られる如き場合には皇族の人は決して選舉運動に關係しない。

故アルバート殿下は嘗て公開の筵席で政治に口を滑らしたことがあつた。すると翌日の諸新聞紙は筆を揃えて極力殿下の行爲を非難した。乃で殿下は全く救治されて再

び決して政治問題に冒險を試むることをしなかつた。英人は、人おの／＼自己の領域を守ることを好むのだから、若し皇族が政治に容喙して見やうかなど、嘘にも思つてきたら、この國における其餘生も略、數えらるゝことだらうと著者は確信する。

政治運動といふことは一向有り難くないものだ。女皇陛下の諸皇子は政治を避ける一避けるやうにし向けられてゐる。斯うしてゐればその美名が永く續けられる。諸皇子は公けに國民の歡呼喝采を受け、私人としては陛下臣民中の最も卑しき者と同じく自由勝手の叶ふ英國第一流の紳士である。その通路に爆發物の撒布してあることはなく、夜寢室に退く時その床下にダイナマイトの箱を發見する恐れもない。吁、幸多き英國皇太子よ、吁災多き露國皇帝よ！君王の在るかぎり英國には一の君王―共和政體國の諸主權者に、自由に關して教訓を與え得る一の君王が在るのだらう。

英國に貴族院の存在するは常識に富む英國國民の侮辱と感づるところである。此國の

貴族は全く貨で買つた貴族である。貴族アリстокラシー族にのみ存する長子權法がその數人の手に抓き集めた財産獨占者である。英國貴族の十分の九は分限貴族であつて百年以前に溯つてその家系の起源を示すことは出来ない。貴族の位置を獲得するヒーローは即ち錢貨上のヒーローである、淡ビール濃ビールを製造して資産を作る方が他の國產物よりも伯爵男爵にありつく機會が多いのだ。

貴族院における議員席は世襲的のものである、而して彼等は常に保守黨を破碎せんと欲する多數より成立つてゐる。けれども貴族院も常識を欲如してはゐない、自己保存は全く沈黙して、世間の注意を惹起せざることに在ることをよく心得てゐる。

貴衆の兩立法的團躰は決して衝突乖離しない。併し自由黨が勢力ある時には貴族院は衆議院を通過した議案を總て否決すればせられるのだが、けれどもそんなことは注意して決してしないやうにしてゐる。如何に亂暴な處置を衆議院が通過せしめても、貴族院はそれを拒まない。それは少し位ゐるの反對はある、青年の男爵議員などはその

獨立を宣言することすらあるが、それは併初めのうちだけで永くは續かない、尊恭すべき此集會中の數名の能力ある先見ある議員が、キー・ノートを興えるのである。

在野黨の領袖は一般にその愛する故國の平和を亂すことはしないといふ、その愛國的希望に言及して演説を終る。目下の法律は果して國民に利益しつゝあるか如何か甚だ疑はしいけれども、自分はそれに賛成して投票しておくのだと彼は言ふ。彼は只餘り大きい害をしないやうにと望んで、それで諦らめるのである。貴族院が自由黨の通過せしめた重要な決議を否認するその日こそ自から致命的創傷を受けるのである。

二大政黨は略々均等の勢力を有つ。故にその結果は、常に一致し、指導宜しきを得、修練缺ぐるところ無きものが恐るべきものとなるのである。それが内閣の馬車チェリクワットに對して制輪機の役をするのである。政府の企劃することは何も彼も是に先だつて非難される。政府の企てる戦争は不正である、政府の調印する平和條約は怯懦であるのだ。戦争不利ならばその責任を負ふのは政府で、幸ひに勝利を得れば是れ軍隊の勇敢なりし

が故とせられる——政府は決して賞讃の値あることを爲さぬ又爲すことを得せぬのだ。併し又政府の事業は比較的に容易なるものだ、何となれば主重問題に就ては總て議會政府黨の多數に依頼する、政府黨の議員は一人と雖も政府に背く者は無い。政府は國會議員の集會に對して是れに冷かし口調を弄することは出来ぬ、何となれば是等の議員は何事につけても政府を威して、その存在を危うせしむるの權力を有してゐるから。自由黨の一員が議會を缺席しやうと思ふ時は又同じ考えの保守黨の一員を見つけて出して談合する。兩黨の二人が議席に居ないから、提出案の賛否が分るゝ場合にも、政府黨と反對黨の議員が同時に缺席してゐるので、政府に取つて差し支へは無い。併し乍ら近時愛耳蘭土選出の黨員は日毎に國民的ナショナルになりつゝあるから、政府は久しからずして嚴しく罪を問はるゝの日が到來するだらう。

議事日程進行中の衆議院は秩序最も整然として些の騷擾も無い。自由黨と保守黨とは互ひに他を敬し言を謹しむ。人身攻撃などは更に無く、各辯士は議長に向つて意見

を述べなければならぬといふ結構な規律があり、且決して議員の姓名を呼ぶことは無い。一議員は議長に向つて言ふ「貴君、尊敬すべきN議員は予が果して何々なるかを知らんとせらるゝのである」或は、「貴卿、N議員は誤解の下に云々せんとせられて居る」。

議場は小さくて矩形を爲してゐる。兩黨は對向して着席し帽子は被つた儘で、發言する時だけ頭顱を現はすのだ。登るべき演壇とても無く、演説する人の前には只卓子が据えてあつて、演説する時は其處に行つて、自黨の者に脊を向けて、議場に向つてではなく、反對黨の人に向つて演説するので、此以上の御發言は御無用だとヘコマさうとする、がその利目のあることは噴て無い。パーリヤメント(國會)は佛蘭西語の話しする(パルレ)から、發語する場所の意味である。

若し英國の國會議員が衆議院の議場で靜肅にして且國會的とすれば、彼が選舉人に向つて意見發表の演説する時の態度は、全然先きの場合と違つてゐるのだ。その時

は口に出す言論に就て他の注意を受ける虞がないから亂暴だ。一最も露骨なる言語で反對者を駁撃する。斯の如き會合で僕はグラッドストーンが老獺漢、白髮の惡漢逆賊、神人に見棄てられたる邪教徒と罵られるのを聞いた。又デイスレーリはヴェニスの猶太人、ゼルサレムの驢馬と惡躰もくたいされた。彼等に掛つては正大にして名譽高き紳士も極惡無道の人非人となり下つて了ふのだ。

千八百八十三年の春のことである、大夕刊新聞の一つに女皇陛下の挫傷恢復に就て斯んな記事があつた。「陛下が不慮の災禍に掛らせられし事實は何物も掩ふべからざることなるが、幸ひに吾人の期待し奉りしよりも速かに全癒せさせられたり。是れ吾人の愛慕敬重して措かざる女皇陛下の爲めに全國民の熱誠なる祈禱を容れさせ給ひしものならずとせんや。陛下の御快癒は再び蒼生の爐邊に歡喜を、まことの英國民の胸裡に福祉を齎らすべく、既に業に長く久しかりし吾人の切實なる憂慮は茲に全く拭ひ

去らるべしかし」。

二六

陛下を尊敬して聖徳を頌し奉つること著者に過ぐる者は誰も無い、又陛下がその臣民の裡に根深く植えつけられし愛情も、著者ほど甚大に感じ奉つる者は誰も決して無い。が、併し、一挫傷に關してまる二欄を乾燥無味の文字を以て埋め盡すのを以てみれば、内閣大臣の親任式に於て君主の手に接吻するの禮式は、是れ決して英國女皇陛下の臣民が恣にする唯一の禮式にあらざることを證明してゐる。

第二十六章

倫助の日曜日—教訓的物象—散歩用杖と蝙蝠傘との別—大道説教家—巴里の盲乞食と倫助の盲乞食—ビスマーク安息日に口笛を吹く。

諸君にしてもし永えに消えざるセントピーターズブルグの印象を得んとせらるゝなら、一年の中、鼻の凝るのを防ぐため五分時毎に鼻梁はなはしらの摩擦をやらなければならぬ時節

に、其所を訪ひ給へ。

諸君にしてもし何物もその記憶を消磨し得ざる倫助の印象を得んとせらるゝなら日曜日にきて見給へ、そして能ふべくんば寒風凜烈肌を刺す日曜日に倫助に來て見給へ。

あらゆる商店は戸を閉して、一匹の犬つ子すら彷徨いてはゐない、何處に行つても荒涼たる數哩の街が續くのみである。顧みて周圍を見るなり、仰いで空を眺むるなり、好きな處を勝手に見て見給へ、何處も同じ悲愁サッドの色彩が諸君を包圍してゐて、骨髓のドン底迄いっ脈に寒いだらうーがたくく身顫ひがついてくるだらう。

其處此處に汚ない乞食鉢の男が二三人三四人居て、烟管パイプを啣えながら料理屋煮賣屋の壁に倚つ掛つて、戸口の開くのを待つてゐる。是等の穴倉即ち料理屋は日曜日には午後一時から三時迄と、夜は六時から七時迄店を開けるだけである。

午前の十一時十五分前に教會で鐘を鳴らし始めるが、この鐘の音は粗辛くて、ヤケ

二七

に向つ腹を立てた音だ。如何して此鐘は朗々と音楽的音響ミュージカル・サウンドを出さないのだらうと僕は他に尋ねて其理由を聞いたことがある。普通の人家同様堅固堅固に造つた教會は、到底その任に堪えないのだ。

さて今や諸君は英人の所謂全世界の美望を惹き起す光景に接する——英吉利人の教會チャーチ或は寺院チャペルに參詣する光景だ。一人／＼手に本を持つてゐる——バイブルだの祈禱本だの聖歌の書物などである。斯ういふ本が大きければ大きいほど立派に見える。中には非常な浩翰大帙を有つてゐる者があつて、それを一生懸命見せびらかせて歩くのもある。併是れを遠方まで持ち運ぶ必要は無いのだ——人間業に及ばぬ仕事をする必要はない——教會は料理屋同様澤山そこいらに在つて、誰の家の向ふにも兩隣りにもお寺は丁どある。

が、しかし今はお寺の中に這入るまい、それは特に一章を設けて僕が説明するのを待ち給へ。

看經勤行は十二時半か一時に濟む。すると人々は晝飯を食べに家に歸る。晩のお勤めは七時に始まる。

此お勤の相間に英國國民は晝寢をする、父と母とは安樂椅子に埋まつてうとうとしながら果物を少しと葡萄酒葡萄酒を一抔飲むのだ。日曜日には訪問し合ふことは無い。子供はバイブルを讀んだり或はバイブル配布會の人が戸口に投げ込で行つた拔萃の、不思議な悔悟者の實話を讀んだりする。

敬虔なる英人は説教開會中は決してぶらつきに出歩かない。教會に行きたくない時分には言ひ譯に、少し軀の加減が悪くてといふ。私は參詣の御定連ではござらぬと澄ましてゐる人は極めて少ない、それを自慢にする者は一人だつてありはしない。

或日曜日の朝僕はさる英人のもとを訪づれて、散歩に出掛けませうと誘つた。その家の息子が同伴することとなつた。家を出る時息子は、僕が散歩用のステッキを持つてゐることに氣付いて言つた。「蝙蝠傘をおもちなさい、その方が可いですから」。

バイブルの抜萃を配つて歩くバイブル配布會の男は實に厄介物だ。この男たちには乗合馬車の中、汽車の中、又町を歩いてても何處でも出會ふ。賣主坊子的の笑面で抜萃物を取つておくと煩さく付き纏ふ。諸君が手取り早く此奴等を追拂はうと思ふなら、最上の策はその紙片を受け取つてポケットに扭ぢ込んで、「有り難う」といふのだ。僕は此種の先生から人身御供に撰り出されたことがある。

奴が云ふ。「貴方、天帝はあらゆる神の子に悔悟するやうにお命じになりまする」。「御注意はかたじけないが、それを私は忘れちやゐない」と僕は言つた。

「あゝ、貴方は外國のお方でありますな。お救ひをお求めなさい、この英吉利においてになる間に貴方の精靈をお救ひなさい」。

「ぢや、貴方は天國の扉を開く鍵を有つてゐるのですか。斯んなにして他を苦しめるのが貴方の職務なんですか。放棄してくれ給へ」。

「私を信用なさい貴方、人は皆罪ある者であります。デヴィッドすら罪人でありまし

た」。

「さやうく、お説の通り」と僕は嘸鳴つた。

「さうであります。けれども彼は悔悟いたしました」。

「悔悟する餘地があつたからです」。

「悔悟すれば吾々は罪を忘れることができます」。

「全くね。だが、ぢや何故貴方は罪人を絞殺するのですか」と僕は言つた―話しに行掛り上僕は面白くなつてきたのだ。

「何となれば彼等が悔悟の途にある時絞殺すれば、天國に送り届けてやることができます。若し彼等を其儘にしといたら又罪ある状態に戻つてくるであらませう」。

僕は此男に言つた。「それぢや聞くですが―貴方は大變學者のやうだから―他を殺して其男の女房と暢氣に情事をしたが、けれど後になつてそれを悔悟したといふその男をです、貴方は貴方の家に、貴方の食卓に、貴方の細君や子供のゐる席に招待する

ですか。それよりデヴィッドのやうな、そんな罪惡を悔悟することの決して無い人間の方を、もつと温かに貴方は歓迎しはせんですか」。

「あゝ、御冗談も時と場合によります。笑ひたけれやお笑ひなさい、今に何方どっちが笑ひ物になるか見てゐませう。さ様なら、又最後の審判の日お目にかゝりませう」。斯う約定して、こんなことを言ふのは僕は不本意だが、クリスチャンにあられない嘲りを見せて彼奴は行つて了つた。

僕は他ひじから聞いてゐた——この聖書バイブル播布會ソサエティの人達は英國では特に外國人の間には、新入會者を作り得ない、と斯うたび／＼聞いた。が僕はそれを信じない、彼等が驚くべき改宗者を作つた例は僕ですら話すことができる。一日僕は次の書面を落手した「拜啓、小生事佛蘭西にて職を失ひしより當英國へ渡り、既に數年來正しき糊口の姿を得をり候。此説明にて小生ゴッド現在の生活如何は御了解相成候事と存じ候。英國到着以來小生は全く處世の方法を一變いたし候。即ち小生は神ゴッドを認め、新教徒プロテスタントとなり、嚴に禁酒

いたし候。然るに不幸小生は只今健康を損じ居申候。外國に流寓せる故國の人は互ひに助け合ふものなるべく、されば若し五六磅——一磅にても宜敷候へば拜借を願はれ候はんには、大に辱けなかるべく、山々お禮申上げ候。何卒この前以て申上ぐる謝辭御受納下され度云々」

日曜日の他の立物中、大道説教家を逸してはならない。この大道説教家といふのは自負自信の深い労働者で、同胞の間を巡つて是を改宗せしむる天職を受けて、自己の實歴談を公衆に説く者である。彼等は如何に嘗て憐むべき一個の罪人に過ぎざりしか、如何にしてその行爲の誤まれるかを認めて悔悟せしか、而して他の人も亦悔悟することの如何に容易なるかを説くのである。で、何處か廣つ場に臺のやうな物をこしらへ、五六名一團となり、その中に一二の老嬢を交えてゐるのだ。英國では他國よりも一層老嬢が、その人間に與える機會の無かつた物——淨き、愛らしき心——を御神に奉

つてゐる。さて人々は輪を作つて一本調子の聖歌を謠ふ。是が道行く人の足を引きこめる。中の一人が進み出て、帽子を脱つて、その中に思想を掻き集めて、そしてお談義を始めるのだ。言ふ事柄は何日も同じである。「扱て可憐しき皆さま方、死際は近づいておりますが貴方方はそれと面を合す用意はできておいでになりますか」。一群の群集が頓て棲つてきて、静かに、殊勝らしくしてゐる。が、是れは説法の席だからと言ふ譯で静肅にしてゐるのではない、單に彼の無遍際の尊敬心―例の英吉利人の、集會の席における一種の公德心からである。集つた人は烟草を吹かしながら聴いてゐる。是れが日曜日に享樂し得る唯一の氣晴らしだから、それを利用してゐるのだ。別段祈禱もやらないが、さりとて冷かしもしない。説教は催眠かつたるの譚語で大概個人の經歷談だ。此大道福音宣傳者が言つたことがある―「可憐しき皆さんよ、私は御神のお救ひを受けました、私は今天國へ參る途中でありますと申し上げられるのを辱なく思ふのであります。一月前迄は私は斯う申しあげることが出来ないのであります、私は悪魔の

奴隷でありました」。僕は全く此男の眞實を物語つてゐることを容易に認めた、といふのは、彼の鼻の頭の悪魔はその功業を表はしてゐるから。

時によつて吾々に愉快を感せしめる唯一の大道演説家は、禁酒會の會員諸子である。彼等は幾分善事を爲しつゝあると僕は確かに信ずる。彼等は労働者も理解し得る言語で演説する―逸事を物語る。聴衆は質問を發し、反論を放つても差し支えないのであつてそれに対する返答は何時でも口を衝いて出てくる。「もしく、私は貴方に申しあげることがありますから暫らくお聽きを願ひます」と、或日此種の集りで、聽問してゐた一人の服装卑しい労働者に禁酒會員が演説を始めた―「貴方は居酒屋へおあしを注ぎ込で毎日酒を飲んでゐるでせう。貴方も、おかみさんも、子供衆もひもじい腹を抱えてゐるのに、居酒屋の亭主だけが自分の食ふ牛肉を―いや、貴方の食ふ牛肉だ、貴方の渡したおあしで買ふのだから―ごつさり貴方の鼻つ先で燻き肉に拵えております。まあ貴方のその破れ毀れた靴を御覽なさい。貴方が軀につけてる物を身ぐるみ脱

いでも一貫にだつて買ふ者はありますまい。私も貴方同様稼ぎ人であり、併、私のこの立派な丈夫な靴を御覽なさい、そら、この温かい毛織のチヨッキを御覽なさい、私の外套を見て御覽なさい、私が今晚家に歸れば丁と立派な食事が調つてゐます、調えといてくれるのは酒屋の亭主ではありません、私の家内ですぞ。私は酒は飲まんで水を飲んでおります、是れが貴方と私とちがふ點であります。何故貴方も私のやうには致しません」。

斯う説法せられて此男は大聲をあげた。「それちや此方等は友達に交際つて一杯ひつかけちや不可えんかね」。

「え、宜しい！飲みたければ一杯お飲みなさい。けれど、もし一杯で我慢が出来んといふことなら、私の通り禁酒の誓ひをなさい、そして水よりほかの物は決して飲まんなやうに屹度なさい」。

是等の労働者は斯う突然に説きたてられても痾癢を起すことはしない。中には笑ひ

ながら答える者がある。「可いやお前、水が飲てえんなら水を飲みねえ。己アお前を祝つて、ごら、濁酒を一杯やりに行かう」。中には又誓盟簿の据えてあるところへ行つて記名する者もあるのを僕は見た。

是等の傳道者といへども全く自己を犠牲にして少しも利慾を圖らぬといふのではない、随分禁酒演説をやつて餘程の収入を得る者もある。亞米利加人で、硝子宮で半時間の演説料として十五ギニーを請求した男を僕は知つてゐる。やはり此男は自分と妻とが十日間ブライトンで禁酒演説を依頼された謝金として百五十五磅を請求した。で更に驚いたのは此男がその金額を入手したことである。

亞米利加人は抜目の無い商賣人根生の人種である。その道にかけては、浚つてくる鷺鳥のある限りうま／＼暮らす狐である。

日曜日に料理屋飲み屋が營業してゐる間はデジョンブルは決してその安息日を他に大威張りすることはできない。倫動には一種の人間即ちその存在が一の疑問で且何の

教會も是を己れに引き入れやうとしない種類の人が百五十萬からある。貴族、中流社會全體の人は總て教會と會堂へ行く、下等社會の者は繩段籠を潜つて飲みに行く。「日曜日には宜しく料理店閉鎖を行ふべし」と自由黨と慈善家連とは叫ぶ。と保守黨員、僧正、大僧正は眞さきに進み出て叫ぶ。「否、平日通り開店せしむべし」。又保守黨の人が著者に言つたことがある。「博物館、劇場、音樂會總て日曜日には休業する。我々には愉快な家庭も俱樂部もあるから、他の誘惑物がなくてもその一日を過ごされるが、しかし破窓茅屋の下等社會は、他に何等の徒然を慰むる物がある？且、奴等が唯一の娛樂場を開放して置くのは吾々に取つて利益である。奴等が飲酒のため精神を鈍ならしめてゐる間は吾々に厄介を掛けぬが、倫勳の飲食店を日曜日に閉鎖する時は恐るべき革命に遭はんけれども」。恐るべき！全く實際だ。斯ういふ酒亭に押かける男子女子の相形を一瞥したら、どれ程恐るべきかが合點せられるだらう。考えても身頭ひがつく。

バイブルでなければビール、ゴスペル經典でなければ杜松酒、日曜日にはこの二つの一つを撰むだけだ、對稱の激甚なる此國には一の中間物も無い。(倫勳郭外中で最も尊重すべきキルバーンには二十五ヶ所の祈禱所と三十五ヶ所の料理店がある。千八百八十二年十一月二十六日午後六時より八時迄のあいだに、祈禱所に行つた者が五千五百七十八人、料理屋に上つた者が五千五百九十一人あつた。デーリー・ニュース抄。〔原註〕テーヌ氏の言ふ通り、「天國にあらずんば地獄—英國には一の煉罪所無し」。

日曜日に小供は遊びほうけてはならない。僕は嘗て六七歳ぐらゐの小供が二人町で密柑を持つて遊んでゐるのを見かけたことがあつた。一人の男がづかく寄つてきて、此椀白小僧！と小ツ酷く食らはした。日曜日に恐はるのは例のオールド・ミスだ。安息日に老嬢に頸根つこを捕まえられた小供は御難だ。

佛蘭西では盲の乞食は笛を吹く。英國ではそれが點字のバイブルの拔萃を指で探りながら高らかに誦しあげる。是等の盲乞食が字形の助けを假つてページの上に指を匍はせながらゼレミヤの祈禱書の一章を記憶してゐて、徐ろにそれを誦し得る者が果して幾人あるだらう、と僕には疑はしい。

諸君は待合室の四方の壁が大字で印刷した經典の本文の紙片で掩はれてゐるのを見るだらう。男子の秘密室へ這入て見給へ、真正面に書きつけてある——「み神は爾曹を見給へり」とか、「いそげよ、御神は爾曹を待たせ給へり」。勝手氣儘な方を向いて見給へ、此方もバイブル彼方もバイブル——何處も彼處もバイブルだらけだ。

プリンスビスマークは恐ろしく口笛を吹くことが巧みだつたらしいが、さる日曜日にハルといふ地上陸した。「予は今回初めて英國の土地を踏みたり」とビスマークは言つて、それから、「予は街路を行きつゝ口笛を鳴らし始めぬ。さるに一英人予を引き

とめて言へり。『君、口笛吹くことは廢し給ふべし』。——「口笛を！そは何故に！」そは禁せらるゝところなれば。けふは日曜日なり。予は最早一時間たりとも此ハルには滞在せざるべしと決心しぬ。而して予はエデンバラに向つて出發しぬ。「吁、氣の毒なビスマーク！何たるインスピレーションぞや。英吉利で安息日の遵守と稱せらるゝ虐待の形式を遁れたるめに蘇格蘭土に行とは何事だらう。蘇格蘭土はジョン・ノックスの郷土で、且、清淨教徒搖籃の地ではないか。ビスマークは蘇格蘭土へ行つて安息日の吹笛家ホイッスラーとして得たる成功を決して誇ることは出来なかつたのだ。

第二十七章

教會と禮拜堂——拜跪法の數種——容易なる懺悔——脱教書の古本——大見世物的勤行——喜捨金——難船せる水夫。

佛蘭西では羅馬舊教キヤソリックの教徒は教會に行く、新教徒はその祈禱所プロテスタントに行く、そして猶太

教徒はその集會所に行く。

英吉利では英國國教會の人は教會に行く、非國教派の者は皆禮拜堂に行く。英人の祈禱所に這入つてみて外國人の驚くことは、貧乏人の全く來てゐないことである。但僕はキャソリック教會の行爲を奇特なりとして、同教會は除外例なりと言つて置かう。

英國國教會は貴族、富豪および中流社會の約半數を信者としてゐて、その教徒は悉く、未來世のあらゆる種類あらゆる條件の人士を包容しつゝ、而かも何人も交誼を結ばうとは懸念せぬ、といふ教義を信じてゐるが、その英國國教會は貧乏人を釣り込まずとしない。國教會特に倫勸の國教會には、決して見窄らしい服裝した者を見かけない。我が檻に集る羊は毛並美はしきものなれど此教會の牧人は氣をつけてゐるのだ。非國教派の教會即ちチャペルに關しては、その貧民排斥に自から他の理由がある。前の英國々教會は政府の補助を受けてゐるが、チャペルは皆その信徒のおかげで維持

して行くのである。此派の牧師は寄附金、喜捨金、贈與物及び正饗の席に招待せられて糊口を續けてゐる。だから此處でも亦貧乏人の不用は一吁、明らか過ぎるほど明らかだ。

み神に對する勤經は常に英語であつて、重にバイブルと聖歌との拔萃物を用ゐてゐる。お勤めの半分以上は聲高々と、恐ろしく調子外づれて歌を謡つて過ごして了ふ。ローランド・ヒルといふ人は國教會音樂を改良したいものだと心配した。何故に惡魔のみが好調の音樂に耳を傾ける特權を獨占するか、理由が解らぬと彼は言つた。實際英國國教會では、恐らく本山以外には、造物主があまり耳を澄まし給ふことはあるまい。

信徒が拜跪する方法には寧ろ奇異なものがある。祈禱本には去り乍ら是れに關する精細な手引きが出てゐる——異語同義の文句さへ使つてあるが、それは決して種々異様

に解釋することはできなのだ——茲にては會衆はその膝にて跪づくべし。

併し會衆は少々違つた跪つき方をするので。人々は尻餅をついて、それから膝つ小僧の上に兩腕を載つけて、軀の上部を前屈みにして、そして面は兩手の間に突込でゐるから、少し離れて見ると丁と皆跪いてゐるやうだが……なに、些ともそんなことは無い、他を瞞いでゐるんだ——みんな氣持宜く尻餅をついてゐるのだ。

お勤めは一同の懺悔で始まる。參詣人全体が共同的試練に合躰する。此普偏通汎の懺悔——罪の子が一人宛その罪を特別に懺悔する必要が無いのだから愈々便利な懺悔法だ。極重惡人も、大の無邪氣な赤ん坊も全じ同一の懺悔である。「當に爲すべき筈のことを吾々は爲さずにおいた、そして爲すべからざることを爲した」。ねえ諸君、實に譯なくて便利だらう、宗教に於ても他の事同様デモンは不便なこと或は道を塞いでぐづつかせたり望みを失はせることは悉く、さらりと西の海へ投げ捨てて了ふのだ。

懺悔が濟んだところで牧師は赦罪の式を行ふ。斯うしてこの精神淨祓こころはらひが終ると、一

同満足して汚れなき小羊の群は、いろ／＼様々に安堵満足の心もちを見せ始める。

お勤めは法談で片づく——ごく短い法談、十五分以上に亘ることは稀れた。誰でも皆己おのが最も好める教會に出席ができて、そして擇り取る教會は澤山在るから——これほどあるか誰にだつて解るものか、無数だ——お勤めを面白くするのは一の政略だ。さて法談は概して至極平凡な心學道話なのに、それを只棒讀に讀み下されるのだから、尙更聽聞するのが厭になる。長老會教徒の友人が著者に言つたことがある——「既に英國國教會の牧師自身が自分のやる法談を記憶してゐないのに、それを私が記憶しやうと思ふと思はれてたまるものですか」。法談を讀み上げるといふ此遣り方は、次の理由で説明がつく。——英國國教會の信徒は或る教理ドクトリンに關してはその解釋を異にしてゐる、だから牧師はその信徒の不快を感じる法談をやつてゐる場合があるだらう。それを信者が管區の僧正に訴えると、牧師は先方の信徒の要求する法談をやるやうにと僧正から頼まれることとなる。だから牧師はその草稿を作つて、そして高いところから讀みあげ

るのだ。僕は又次の廣告を見て他の理由を發見した——「法談五十集、廉價に販賣すべし。希望の者は書面を以てマンチェスター郵便局内祐筆坊宛に申込むべし」。

僕はボンチで斯んな笑話を讀んだ。「立派な老婦人が副牧師に向つて、『何といふ惡い人が世間には有るのでございませうねえ貴方、貴方は他の御法談をお奪んなすつたと申す者があるんでございますよ』。

『そんな奴があつたらそれや嘘だと仰ツしやつて下さい、貴女。あの法談は拙僧のござるよ………貨出して買つたのでござるよ』。

加特力教會では、あまたの本山、君牧師、大僧正、僧正及び多數の牧師を自己の費用で維持して行かなければならないので辻褃を合して行くために何も彼も貨に代へる必要があるのである。

日曜日の勤行が終ると加特力教會では演奏會を聞く。その演奏會は皆、芝居の廣告と並んで新聞に廣告に出る。場代は眞中の上棧敷が六片、横側が三片だ。チャーチの

中を、一人の僧が殿をして崇嚴な行列が通るといふ大會の節はそれが倍増になつて一志と六片だ。入口で切符を買ふとは丁度芝居に行つた通りである。日曜日には他に競争物が無いから此演奏會はいよゝ歓迎される。それにこの演奏中には中々秀逸なのがあつて、オーケストラも謠ひ手もよく、心を惹く物が澤山にある。

此演奏會では英人はユックリ構えて暢氣にしてゐる。彼等は音樂を聞くためにお寺詣りするのだ。面をオーケストラの方に向けるやうに、祈禱臺を背にしてるから面白い。オーケストラは普通正面入口の上部の高所にある。

僕は嘗て一人の婦人をサウスヨークの加特力本山の晚禱會に伴つたことがあるが、其婦人は基督新教の大信仰家であつた。例のオーケストラやら、煌々と輝やく花燭臺やらを見ると、婦人は眩しさうにとほんとなつてゐたが、頓て座が定まると僕に耳語して言つた——「貴方、私お祈り致しては可笑しうございませうかねえ。」

だがウェストミンスター寺院とセントポール本山との勤行は實に崇嚴である。吟誦

する歌は立派である―簡潔にして偉大である。法談は英克蘭教會第一の大辨説家がやる。

非國教派の教會では祈禱本は無しで済まして、何の儀式もその後はない。勤行は―牧師が、他手を借らずにやる。先づ會衆のために祈り、聖歌を唱へ、法談を試み、さてそれから醜金を集めて廻るのだ。この喜捨金は牧師自身の収入となるのである。

喜捨金は牧師の勤行を滞りなく務めさせる蝶鉸で、佛蘭西劇道の通語でいふクル―だ。佛蘭西では底の深い囊で喜捨金を集めるが、英吉利ではもつと賢くやる―小い盆を用ゐる。自分は此袋の中に囹鳥を入れることができる、それだけの用意はあると思ふ人は、必ず渡される皿の上に銀貨を載せて、わざと見えるやうにする。集金方の牧師自身が既に、納所から出てきて二三の半克貨及び他の銀貨を板金の上に置くこと、尙ほ合議室における醫師がその卓上に一ソエリン貨を置くが如しで、是れが貴方から戴きたい物だ」といふ意味を微見するのである。佛蘭西で供養に行くならゴスペル

に間に合ふやうに行つてゐなければならぬ、が英吉利では喜捨金集めの始まる前に行つてゐないといけない。英吉利ではお勤めが済んで、皆が歸宅にいそがしく、面の前に突き出される例の盆などには氣をとめぬ時分になつて、牧師が入口で喜捨金を乞ふやうな失措はやらない。善男善女がまだ皆席に就いてゐるうちにプレートを衝き付けられる。―右隣りの人がそれを此方に渡すと、今度は此方がそれを左隣りの人に渡す。斯うしてその列の端まで済んだところで、集金方はそれを受けて次の人々に又渡すのだ。佛蘭西の寺詣の御定連は眼を瞑つて、たぬきをきめ込む者がよくあるが、その時は牧師は只祈禱所の端で金ぶくろをチャラ／＼鳴らす。併し英國では此空寢が効かない。

次の英國の滑稽小話はもう古くて、疲れてゐる―。二人の難船した水夫が、もうとても助かる望みはないと思ひ諦めてゐると、一人が言つた。「己達の魂を神様にお委ね申すには如何したら可からう。聖歌も知らなげや、祈禱も知らない。本當に如何

したら可からう。」貨を喜捨する」と他の者が氣を利かした。

第二十八章

英國の宗教。

若し基督教徒たることが教會に通つて一生を神學上の問題の議論に潰すことだとすれば、ジョンブルは歴としたクリスチャンである。若し信仰が宗教の教義を實行するにあらずして、其教理に關して口論する點にあるものとすれば、ジョンの信仰は比類なきものである。宗教に對する情熱は癡狂の程度迄達してゐる。宗教の善惡如何は問はざれ、何方でも何でも皆無よりはましである。佛蘭西では人皆その弱點を—自分の裡に見出されざる多くの弱點をすら誇つてゐる。英吉利では人皆その道德を—殊に自から有せざる道德を誇つてゐる。佛蘭西人は罪惡の自負漢である、英人は道德の偽善者である。

英國では宗教上の教條は皆それ／＼重んぜられてゐる—振動派、炎情派、ペキュリヤー・ビープル派、救世軍。自由神教派のみが除外されてゐる。人が或る位置、職業を求めやうとする時は、その雇ひ主たるべき人に向つて、私はクリスチャンだといふ。新聞の紹介欄を借りる時は飲酒嚴禁家と記す。ところが、若し佛蘭西で、自分はクリスチャンの紳士だと言ふと、何を此奴がと小ッ酷く足蹶にされる、そうすれば獨りで丁と天國に追ひこくられて了ふ。

英吉利人は銘々好き勝手な神様を信心渴仰する。だから此國には登録官の承認した宗派が百八十有三もある。是等多數の宗派は天然自然に眞を發見して各自から信ずるところがあるのだ。不幸にしてまだ冥土から歸つてきて、その見物した模様を話す者が誰一人無いものだから、まだ／＼日は永い、ぼかんとしてゐても可い、吾々回々教僧、托鉢僧その他世間を單純に考えて迷信に耽つて怠けて暮らしてゐる者共も、せかせかすることはないと安心してゐるのだらう。

基督教の教理は結構なものであるが、基督の信者は屢々然らず。著者は寧ろその宗教に孜孜として努めるマホメット教徒の方を尊敬する。一体現今の基督教徒は如何である？隣人を愛すること尙ほ自からの如きクリスチャンがあるか、右の頬を毆たれた時左の頬をも差出す者があるか、敵を宥す者があるか、興えたる物をも取り戻さうとするではないか、己の欲する所又よく之を他に施すクリスチャンが今の世に果してあるか。

隠密に祈禱をするといふことが廢れてから宗教は大にその清淨の氣と質撲の實を失つた。英吉利では競争の行はれる點からと宗教に自由貿易を適用した點から、是れが殊に烈しくて、銘々それ／＼隣人よりも外見を飾らうと狙つてゐる。祈禱臺に立たず、屋の棟に上らずして爾曹の居間に引きこもり扉を閉して祈れよ、とは經典の教ふるどころであるに……さうする人が幾人あるだらう。

羅馬教徒は法王に誓ひ、新教徒はルーテルとカルヴィンに誓ひ、清淨教徒はジョン・

ノックスに誓ひ、ウェスレー教徒はジョン・ウェスレーに誓ひ、救世軍の人はブリス大將とブリス夫人とブリス嬢とに誓ふ。倫勳の浸禮教會派はスパージャン氏の口より出づる語を一言たりとも聞き漏らさじと熱心に耳傾けつゝ禮拜堂カネナカに群がるのだ。或る人々はもしよくムーデイ氏或はサンケー氏の衣の裾に觸れたにせば乃ち救はれたるものと信じてゐる。著者は婦人連の、上述の福音宣傳者が群衆を押しわけて説教せんと教堂に進む時、宣傳者の双手を堅く握り緊めるのを見た。加特力教の人が巡禮回國せんとする時その行く先はアワー・レデイ・オブ・ルールドである、アワー・レデイ・オブ・ラサレットである、ラ・ビヤニューリユー・ゼルマンである。彼等が雷と電との災を防がんと祈るはセント・バルブである。總て是等の人の宗教では上帝は第二位の役を爲すに過ぎぬやうである。

英吉利では宗教思想は吾人の心中よりあらゆる他の物を剝奪し、壓服せしむるもので、烈強無比の感情である。監獄や癲狂院は宗教狂で一抔になつてゐる。

佛蘭西で重罪犯があつたと聞くと吾々は、「その女は何處にゐる」と直に罪惡の奥に婦人の潜むことを聯想するが、英吉利では事情を異にして、そのうちに禮拜堂チャーチを發見する。よく其名を値ひする銀行の破産者で投資家の信用を得るため、且恐らくは又彼等が吾々人間から奪つた物を少々神に捧ぐるため、教會或は禮拜堂を建立しない者は少ない。僕は今日の新聞で、銀行破産者の詐欺にかかつた人の記事を見た。右破産者を信用して預金をしてゐた一老女の談話に、私は右の被告を全く信用してゐた、殊に私が彼男をオペラの席に誘つた時、そんな場所には自分は決して足踏みせぬと言つて斷つたその節以來一層信任してゐたのだとある。

吾々は皆ガールフィールド大統領を暗殺した惡むべき卑怯なるギトーが、毎日、數月に亘つて爲した宗門入會誓約を記憶してゐるが、思つても胸の煩逆ひがっくことだ。

合衆英國には國立のチャーチが二つある——英克蘭土及びウェールズのアングリカン・チャーチと蘇格蘭土のプレスビテリアン・チャーチと。愛耳蘭土では國立の教會が千八

百六十九年廢止された。

アングリカン・チャーチは二人の大僧正——英克蘭土の監督總長兼カンタベリの大僧正とヨークの大僧正と及び三十僧正管轄の下にある。此二人の大僧正と二十四人の僧正は貴族院に各一席を有してゐる。

蘇格蘭土の國立教會は宗界および俗界の委員より成る高等宗教法院監理の下に在つて、且法院が毎年選舉する一人の總監モデレーターと、毎年勅選のハイ・ロード・コム・ミッショナーとが統率してゐる。

國教に従はざる重なる教會はメソヂスト教會、浸禮教會、唯一神教會ユニチーリヤン・コングレグーシヨナリスト、會衆教會ユニチーリヤン・コングレグーシヨナリスト、即ち獨立教會及びウェスレー教會である。

合衆英國及びその殖民地における八千一百万の人口中千八百万はアングリカン・チャーチに、千四百五十萬はメソヂスト教徒に、千三百五十萬は加特力教會に、千二十五萬はプレスビテリアンに、八百萬は浸禮教會に、六百萬は會衆教會に、一百萬は唯一

神教會に、そして約一千萬人はあまり重要ならざる數種の教派に各々屬してゐる。著者は茲に英國に現在する一百八十の宗派を表として悉皆列擧しやう。但し特別の興味あるものは特に後章のために保存して置く。茲に表がある—

(譯者云ふ、是等諸宗派の名は殆ど全く我國未だ一定の譯語無きものなり、字音を宛つるも却つて意味を不明ならしむる憂あれば、原名の儘を掲ぐ。既述の宗派譯名も不穩當なるもの多からんことを察す)。

The Advent Christians;

The Apostolics;

The Amnians—カルヴァン教徒に反して、基督は死を以て全人類を救へりと信ずる派。

The Baptists—基督教徒が思慮分別ある年齢に達して信仰の告白を爲せる以前に洗

禮するは不可也、と幼兒の受洗を否認する宗派。

The Baptized Believers;

The Believers in Christ—我等の祈禱のみ只是れ上帝の教令デクリーに感化を及ぼし能ふものと信ずるクリスチャン。

The Believers in the Divine Visitation of Joanna Southcott, prophetess of Exeter—是れは後章に解説する。

The Benevolent Methodists;

The Bible Christians, or Bryanites—千八百十五年キリヤム・オーブラヤンの建てし派にして聖餐に與かるもの。

The Bible Defence Association;

The Blue Ribbon Army—アルコール的飲料を飲用せざる徒。

The Brethren—儀式も行はず牧師もなく、互ひに洗禮をし合ふのだ。その説によれ

ば、福音書を説教するは是れ救世主の事業の完成せられたることを否認するものである。

The Calvinists—聖餐中に聖主の躰軀と血液の現はるゝことを拒む派。

The Calvinistic Baptists—アムステルダム派の説を餘りにアルミニウスの説なりと爲すもの。

The Catholic Apostolic Church;

The Christians—主イエスキリストはかゝ何等の名をも有せざるもの。

The Christians—他の名を呼ばるゝことを拒むもの。

The Christian Believers;

The Christian Brethren;

The Christian Disciples;

The Christian Eliasites;

The Christian Israelites;

The Christian Mission;

The Christian Teetotalers;

The Christian Temperance Men;

The Christian Unionists;

The Christadelphians;

The Anglican Church—高教會、低教會、廣教會に分たる。高教會の信徒或はその教義固執者は、羅馬舊教をまねて懺悔的且つ宏大なる儀式を採用する。彼等は法王の權威を認めない、それだから政府の補助金を受ける。低教會は殆どカルヴァン教徒的峻厳苛酷をまねて甚だしく反國教徒ドイツセントに類似してゐる。廣教會員は地獄の存在を信せぬ。その牧師中には數人の最も著名なる英國大家を有す。故副監牧師スタンレー氏は廣教會の最も光輝ある裝飾物であつた。

The Church of Scotland;

The Scotch Free Church ;

The Church of Christ ;

The Church of the People ;

The Church of Progress ;

The Congregationalists—自己自身の牧師を有すれども、祈禱には一定の形式がない。

The Countess of Huntingdon's Connexion—英國國教會の祈禱本を採用す。此教派は

十八世紀時代にハンティンドン伯爵夫人セリナ・シャーレーの建立したるもの。

The Covenanters—ノロキメタレントキヤーチ新教教會の危険に類せりと思はれし時十六世紀に於て建立せられたるもの。

The Coventry Mission Band ;

The Danish Lutherans ;

The Disciples in Christ ;

The Disciples of Jesus Christ—タマス・キャンプベルの設立したもの。教義ドクトリンに関する諸問題は、ドクトリンとして措いて、救世主の教會の一致を確實ならしめんと提議した人。

The Eastern Orthodox Greek Church ;

The Eclectics ;

The Episcopalian Dissenters ;

The Evangelical Free Church ;

The Evangelical Mission ;

The Evangelical Unionists—千八百四十年ゼムス・モリソン君の蘇國に設立せしもの。

クリストがその死に因つて過去、現在、及び未來の全人類を救ひしことを信ぜざるは最大の罪なり、と主張せし人。

The Followers of the Lord Jesus Christ ;

The Free Catholic Christian Church ;

- The Free Christians ;
- The Free Christian Association ;
- The Free Church ;
- The Episcopal Free Church ;
- The Free Church of England ;
- The Free Evangelical Christians ;
- The Free Grace Gospel ;
- The Free Gospel and Christian Brethren ;
- The Free Gospel Church ;
- The Free Gospelers ;
- The Free Methodists ;
- The Free Union Church ;

- The General Baptists ;
- The General Baptist New Connexion ;
- The German Evangelical Community ;
- The Strict Baptists ;
- The German Lutherans ;
- The German Roman Catholics ;
- The Grassites—シモン・ペテラスが十八世紀時代に蘇國に設立せし教派、會員たるに
キリスト教の神聖體を以てシモン・ペテラスの徒は凡ての生肉を食ふことを禁じてゐた。
- The Glory Band ;
- The Greek Catholic Church ;
- The Halifax Psychological Society ;
- The Hallelujah Band—その勤行は全く謝恩を以て成るもの。

The Hope Mission ;

The Humanitarians—救世軍の神性を認むるもの。

The Independents ;

The Independent Methodists ;

The Independent Religious Reformers ;

The Independent Unionists ;

The Inghamites—有名なるハッチンドン伯爵夫人の義子ベンチャミン・インガム氏の教徒。

The Israelites ;

The Irish Presbyterian Church ;

The Jews ;

The Lutherans—カソヴィニストに反して聖餐(麴麩と葡萄酒)中に基督の身血の實

現存するもの。

The Methodist Reform Union ;

The Missionaries ;

The Modern Methodists ;

The Moravians ;

The Mormons ;

The Newcastle Sailor's Society ;

The New Church ;

The New Connexion General Baptists ;

The New Wesleyans ;

The New Jerusalem Church ;

The New Methodists ;

- The Old Baptists ;
- The Open Baptists ;
- The Order of S. Austin ;
- The Orthodox Eastern Church ;
- The Particular Baptists ;
- The Peculiar People—その教徒の疾病は總て救治せらるゝことと云ふ攝理を信するもの。
- The Plymouth Brethren ;
- The Polish Protestant Church ;
- The Portsmouth Church ;
- The Presbyterian Church in England—清淨教徒の設立したるもの。
- The Presbyterian Baptists ;
- The Primitive Congregation ;

- The Primitive Free Church ;
- The Primitive Methodists ;
- The Progressionists ;
- The Protestant Members of the Church of England ;
- The Protestant Trinitarians ;
- The Protestant Union ;
- The Providence ;
- The Quakers ;
- The Ranters ;—新舊の基督論と同一の拍手する派。
- The Rational Christians ;
- The Reformers ;
- The Reformed Church of England ;

The Reformed Episcopal Church ;

The Reformed Presbyterians or Covenanters ;

The Recreative Religionists ;

The Revivalists ;

The Roman Catholics ;

The Salem Society ;

The Sandemanians—ブレックサイトと相似たるもの、ロバート・サンデマン氏の最も熱心なる信徒。

The Scottish Baptists ;

The Second Advent Brethren—メシヤの再來を期待せるもの。

The Secularists—現世の事務は未來世の到着せざるうちに思量すべし又宗教は善且道徳的なるものを獨占すと僭し得ざるものなりと信ずる人々。

The Separatists—國教より分離する人、脱宗者。

The Seventh-day Baptists ;

The Shakers—アン・リーの設立したる宗派、リイは神の默示に因つて肉躰の快樂が人間墮落の原因なりとせし婦人。

The Society of the New Church ;

The Spiritual Church ;

The Spiritualists—他界の精靈と交通したりと信ずる人々。

The Swedenborgians—千六百八十六年エマニュエル・スウィデンボルグの設立したる

宗派。

The Temperance Methodists ;

The Trinitarians ;

The Union Baptists ;

The Unionists ;

The Socinians, or Unitarians—三位一體説を退け且基督の神性を拒むもの、ヒューマンニヤンムの徒を大同小異。

The Unitarian Baptists ;

The Unitarian Christians ;

The United Christian Church ;

The United Free Methodist Church ;

The United Presbyterians ;

The Universal Christians—その信仰の、神は一日そのもとに全クリスチャンを召集して現在にて爲せし善事悪事を糾明すべし、罪ある者は罰せられざることをなく此世にて愛闘せんべし、と云ふにあらざる。

The Welsh Calvinists ;

The Welsh Presbyterians ;

The Welsh Wesleyans ;

The Wesleyans ;

The Wesleyan Methodists ;

The Wesleyan Reformers ;

The Wesleyan Glory Band ;

The Working Man's Evangelistic Mission ;

是れで英國の人間濟度事業の表が終つた。ジョンブルが若しパラダイスに行かれなければ、それやジョン君のせいぢやない、さうでせう諸君。

さて是れから是等の宗派中で面白味のあるものを抜いて少し詳しく記してみやう。

第二十九章

他の宗派—排天宗教—ケッド・フライデー—蘇國におけるカルヴィン派—ソールト・レーキ窪の
 追想—オルレヤン少女の結婚—クエーカー派—シエーカー派—参詣する理由。

新宗派は毎日設立せられてゐる。無名の牧師をして ホーリー・スクリンチニア 聖經の一節に新解釋を施させてみる、直に一團の人の注意を喚び起して頑迷なるその信徒の財布を狙ふことが出来る。狙ひはいつでも適中して、そこで小さな禮拜堂が建つことゝなるのだ。一寸斯んな風の文句を書いた摺り物がよく廻つてくる—「拜啓、當界限にて一の新禮拜堂の必要を感じ居り候は久しき以前よりのことにて候。エックス牧師茲に着眼せられ、禮拜堂設立の寄付金調達次第、自から其牧師の任に當らんと申され居り候。云々。」先づ木造の小さい建物が建つ。すると喜捨金の額が増してくる。亞鉛トレンの屋根が木造のものに變る。そして人々の熱心が冷めなければ其所に又今度は立派の煉化造の教會が出現するのである。

近日一紳士が偷動に一の シイステック・チャーチ 有神教會を建てるといふことだ。右の紳士は過去四五年間、父なる神のみ獨り崇拜せらるべきものなり、といふことを熱心に主張して説いてゐた人だ。併し設立に要する費用の集まり方が甚だ徐々であるので、紳士は立腹して言つた。「有神論に對しては多數の信者がある、それぢや何故に彼等は率直にその信仰を告白して己のここに來ないのだ。」貨の集つたのは只た六十磅ポンドぐらゐのやうだ、是れだけでは此の紳士の設立せんとする宗派相當の建物には不足だと先生思つてゐるやうだ。

目今又神聖使徒ホーリー・アポスタルの教會もできる準備中で、此教會ではオーケストラや本職の歌手シンガーなどの援助を得て宏大な芝居見世物的のものをやるといふ。祭壇の周圍には使徒たちの巨大なる立像を並べ、後ろの物凄い大岩の真中には十字架上の基督像を點出するのだ。勤行は有絃樂器殊に豎琴の演奏につれて二百人の齊唱者が謠ふのださうだ。内部には

無数の銀色美はしき十字形の棒を建て渡してその尖端に電氣を點けるのだ。何しろ大變なものができ上ることだらう、ねえ諸君。このお祭りの世話方即ち樂劇頭取はアングリカン・チャーチの青年好顔の牧師だから屹度教区内の人半数以上の賞讃を博すことだらう。

前章に數へたてた宗派中、羅馬舊教とアポストリックとが最も不談判である。「天主教が何だ！」——是れが今でも英人の嘔鳴り聲だ。教友派、跳躍派、炎情派——すべて少しも英人を驚かす宗派では無いが、併、黒い、圓頂の僧侶は火刑柱と血染のマリーを想ひ起させる。「火傷した小供は火を恐れる」と英人は言ふ。天主教に對する英人の憎厭は殆ど荒唐にして無稽なる迄極端である。であるから例へば復活祭前の金曜日、反國教徒などは殊に公共の享樂日一種の一般休業日だと思つてゐて、羅馬で行はれることに正反對のことをやるのが大事件だといふ。吾々なら佛蘭西で、「けふはキリスト様のおかくれになつた日だ、室を開いて黙思して過ごさう」といふところを英人は、

「今日は基督が吾々をお救ひなすつた日だ、愉快をやらうぢやないか」といふのだ。併、是れにも拘はらず矢張英人の大概はグッド・フライデイに肉食を禁ずる。

プロテスタンチズムの峻嚴苛酷なる極點を見んには蘇格蘭土に行かねばならぬ。諸君も御承知の通り蘇國では區々たる瑣末のことが容されぬ、何事も半分で放棄つておかない、瑣細なこと兒戯に類することが大目に見過ごされないのだ。僕はプレスビテリアン派の牧師の蘇國人が、その小供に基督の祈禱を教へる時、いはゆる教鞭を振ふことを知つてゐる。小供が一寸問えるか、間違ふかすると脊中を打撃くのだ。是等澁面のクリスチャンの目には嬉笑といふことが甚だ疑問なのだ。滑稽は罪惡である、何となればそれは輕躁な行爲ではないか。無駄冗談を云へば、何日か罪を負はなければ濟まんではないか、と斯うだ。蘇格蘭土人は貞潔の君子である——生真面目の人間ありとすれば蘇國の人は即ちそれだ。

亞米利加で大繁昌のモルモン宗は一夫多妻と諸神雜拜とを承認しておく。現世で持った女房で満足せずに、來世でも亦夫婦約束をすることができなのだ。實に、天の撰民の住む郷で、浮世における模範的生活に報ふるため、死んだ男を同じく死んだ女丈夫或は美人と再び結婚させ同棲せしめるのは、モルモン宗の常習である。千八百七十六年著者の一友人がソールト・レーキ市に行つて、現在はモルモン宗僧正の妻なる一露西亞婦人に紹介されたが、その婦人が右の友人の興えた印象の中には次の如き談話があつた。「私の初手の夫は十二年前に亡くなりました。私には大變心切でございましたけれど、それでも私は思ひだして嬉しいとは思ひません。と申す譯は、ほかの奥さんには私にしてくれたやうな心切も愛情も無かつたんでございます。私共の宗教では、夫は多くの女房に分け隔てをつけてはならいんですもの。それから私の二度目の夫は―呼貴方、私もう！何と申したら可いでせう、それは實に神様のやうな人でござんした。ですから亡くなつて氣の毒だとは思ひません、あの人の定業が羨ましいんで

ございますわ。何故と申すと、今は極樂へ行つておりますんで、そして昨年私共のお寺であの人をオルレヤンの少女と縁組させたんでございますよ、貴方」。

震動派クエーカーといふのは此派の最初の信徒がその祈禱の時、造物主の御前に恐れおののいて、軀を揺ち曲げ撚ぢらせたところから、起つた名だ。此派の人は神前におけるほかには決して跪かない、又誰にも脱帽の禮を施さずして、誰を呼ぶにもお前お前といふ。誓ふこともしない。この派の信仰に従へば、戦争は罪惡なのだから身を軍籍に置かない。聖餐禮も採用しない。一名を教友派といふ此宗派は、尊崇の儀禮を否認して、會員はその會合の時勝手に相對づくの話をする。新參の震動者コンヴェンションの一人が、神意に感激して手振身振して祈り出す迄は、皆の者が黙りきつて一口も聞かぬ。この宗派はジョージ・フォックスといふレーセスタシャの鞭屋が千六百五十年に設立したものだ。英の大政治家ジョン・ブライト氏は震動宗徒である。グラッドストーン氏が一八二八年埃及

征伐の議を決した時、ブライト氏がその内閣を辭職したのは此故である。

亞米利加の復現信徒シエーカーは今では原のクエーカーに最もよく類似してゐる。此派の人の勤行は斯うだ。―男と女とが面を向け合つて、數列に並んで、それから手を拍ち、躍り、叫びして到頭疲れて片息になつて打つ倒れる迄やる。若し明日にも一新派が起つて、それが神を祈りつゝ逆立ちして歩いて、誰ももう餘り驚きはしなからう。そんな宗派の起るのを妨げるものは何だつて有りはしない。教會も禮拜堂も祈禱所も丁とあるのだから、それや無意味の極かも知れないが、併、法律に觸るゝことなく、自由にその欲するところに耽り得ない祈禱法は一つも無いのだ。お寺詣りの御定連の詰め込んでゐる此國では、宗派が何だらうが彼だらうが少しも關ふことは無いのである、何處か祈禱所に行きさいすれや可いのだ。

「貴方は何故教會に来るのでありますか」。僕は一日デヴォンシャヤの一小新教の教會の牧師が、説教臺の上から斯う叫ぶのを聞いた。「私はその理由を説明しませう。貴方がたの中には、お隣りの方同様に、若しくはお隣りの方以上に、可い兒にならうとして来る者がある。主イエスの小作人なる貴方がた農民は、地主様に氣に入らうとして来る。貴方がた商人は得意先の人に信用を得やうとして来る。貴女がた年若の婦人は、新らしい衣裳を誇示ひけりかしにおいでになるのだ。いや全く貴方は教會參詣をせなければ何處に行つて宜いのか解らんから、それで教會に參詣になるのでありませう」。

今日の話題トピックを述べる場合、この書中に、當時宗派中の大立物たる救世軍のために特に一章を保存するのは當に然るべきことと著者は信ずる。

第三十章

救世軍―浪神的揭示―回々教僧侶―救世軍の勤行―悪者の地獄に墮落する方法―狡猾なる將軍

重病には劇薬。茲に救治を要する下等社會があつた—既述せる如く、世間には教會に脚を踏み込まうとは夢にも思はぬ人間があつた。新^{プロテスタント}教會は下等社會を歓迎しない。反國教派も是を歓迎しない、加特力の宗教は神秘解すべからざる音楽と同じ不可解の羅典語を使つてゐるが、そんなものは下等社會にとつては默^{ドクトリン}劇ぐらゐの利目しかあるまい。大道の説教家は單調無味にして聴くに堪えず、只少數ののらくら者、ほつつき男の足のをどごめるだけだ。—乃で猛烈なる手段を採る必要が起つて、憎眠を貪る衆生濟度の策が、英國最下等民の衣の裾まで施されることとなつた。

僅かの給料で百人ばかりの勞働者を募集して救世軍はその基礎を作つたのである。さて救濟の旗を押立て太鼓を打鳴らして、是等の募集兵は躍り狂ひ、飛び跳ね、手振身振りしつゝ又大聲におらび立てつゝ、倫動市中を練つて歩いた。人はそれを見て驚きもし又大變面白がつた。

この宗派の新入者は聲を囁らして叫ぶ。「笑ひたき者共は笑へ、貴様たちは地獄の一本道を歩つてゐるのだ。吾々は救はれたのだ、それに吾々は笑はれんければならんのか！」そして又もや益々狂ひ廻りつゝ愈々聲を高くして「叫べ、おらべ、水を飲め、而して吾が上帝の徳を頌せよ！」

彼方からも此方からも貨が降る—^{ギニア}錢貨の^{あめ}降雨だ。慈善事業或は宗派弘布のために資金が要るとなるごジョンブルはいつでも直ポケットに手を突込んで財布を引き出す人種である。間もなく改宗者の群衆が此軍團を増大させた。小人數の集りは多人數の隊伍となつた。而してこの隊伍は—少し以前迄は僅かに此國で數百の信徒をしか有たなかつたのが、今は訓練を重ねた四十萬の兵士となり、軍曹、中尉、大尉及び大佐に率ひられて、その上に一人の大將を戴くに至つたのである、今や彼等は規律整然たる衆生濟度の一大軍隊である。

成功に酔うた救世軍は全國を貫きて都市より都市にその凱旋的進軍を續けて、將に

勢力猖獗なる一の大流行病たらんとしてゐる。その會合をその營舎内に行ふを以て満足せず、(營舎とは此團躰がその癡狂院に命じた名前だ)分遣隊を派出して是れに樂隊を先鋒たらしめ、以て一部の近隣を改宗せしめんと努めてゐる。だから若し吾々が救世軍の人に、此奴まだ怪しいと見こまれたら災難、逃れツこはない。分遣隊はつかつかやつて来て遠慮會釋なく吾々の軒下で大喇叭小喇叭を吹き羯鼓を鳴らし大鼓を打ちたてる―喧囂噪擾、人をして戰慄せしめる。「惡魔!一齊射撃!」と呼號するのだ。そこで、是れに先だつて逃げて自から救ふの計謀はかりごとに出でざれば、吾々は厭でも應でも救はれざるを得ない。巡查は手を出すこともできなければ又出さうともしない。此時諸君の唯一の策は、着手中の仕事捨てて、或は讀書中の書物を抛り出して、おびえて泣き立てる諸君の赤ん坊をだましますかしに行くことだ。そして是等の野獸が吠えてく、聲を囁らして遂に引きあげて了ふのを待つだけだ。

救世軍には『勝鬃』と呼ぶ機關新聞があり、大本營があり、將校があり、更に重要な銀行まである。

多くの聯隊は總督から命令を受けて行動を取る、その宣言は實に少しく瀆神的であつて、是れが人の群集する場所に貼り出してある。一つ二つ例を示さう。初めのはスカルポロで寫したつたものだ。―

「羯鼓の名手米人コンデイ大尉、及び男女の軍兵は、勇敢決死の兵卒を引率して、本日スカルバロ市中を進行すべし。

「午前六時半膝操練及び手巾練習。十時半聖靈の降臨。午後二時半敵砲に對して射撃、六時半には全線に於て火と煙と起るべく、八時半上帝讚美。

「月曜日午後二時半米國羯鼓手他の士官と共にキリストの御名に於て歌ひ、語るべし。六時半、兵士一同正装して營舎に集合し、觀兵式を行ふべし、即ち兵士は赤手巾を持し、上衣を着しエブロンを着け又必ず上帝讚美用の帽を戴くべし。

「逆者等は須らく静謐を旨とすべし。」

「軍醫出張、負傷者を看護すべし。」

「王なる耶蘇及びカッドマン大尉の命令により、揭示すること斯の如し。」

僕は又左の揭示を千八百八十二年の競漕日に、トルクエーで見かけた――

「救世軍」

「パーウィー少佐、デービス大尉及びハリー大尉の司會の下に大集會開催。」

「午前十一時、聖靈招待。」

「正午營舎出發、敵地を通過して勝戦の進軍。」

「午後二時、大激戦。」

「午後九時半、營舎集會、その時赤熱せる福音の彈丸は、惡魔の奴隸の列中に射撃ち込まるべし。（此奴隸といふのは無害なる競漕の見物人のことだ。）」

「注意――大軍醫（イエス・クリスト）は傷病者の看護として來訪之れ有るべし。」

僕は或る日救世軍の營舎に行つてみた。今や式の始まるころであつた。オーケストラは一個の大喇叭、二個の小喇叭、一個の羯鼓と及び大太鼓二個から成り立つてゐる。この最後の大太鼓といふ楽器は英國音樂の基礎となるものである。嘗て近衛砲兵の一聯隊が、「牧人」調を以て幻樂を演奏したのを僕は聞いたことがある。「吾が祖國を我れに與えよ」といふ句までくると、大太鼓を打ち込んで拍節を告げたが、それは實に恐ろしくて力の籠つた打音であつた。扱又救世軍の話だが、人々は續けざまなる讚美歌を、「イエスは我が物の」覆唱尾句を附けて、周圍の人の繰り返す稱讚の中に朗々と謡つてゐる。この時年配二十前後の一青年が壇上に顯はれて、拍手をしながらグル／＼廻り始めたが、到頭絶息して牀の上に打倒れて了つた。會衆は一齊に立ち上つて叫んだ。「救はれたのだ、／＼」。

その時恰も戸の側に一人の懷疑者が立つてた、一旦事あらば眞先きに逃げ出さんづ

用意で、「いや、未だく」と呼びたてた。

三六

そこで他の救世軍士が祈禱を始めた。「嘲笑者に聴け、悪魔は吾等の中に在り」。

「悪魔は吾等の中に在り」と、會衆が繰り返へす。

「彼を追逐せしめよ」と辨士は言ふ。

「彼を追逐せしめよ」、と會衆は異口同音に語を合はす。

しかし悪魔は決着のつくまで踟躕してはゐなかつた——猶豫なく遁げ出して了つた。

剽輕者が随分厄介なことをする。或る滑稽男が救世軍中の一美人を捉えて、貴女は救はれたと思つてゐるかと思つてゐるのを著者は聞いたことがある。婦人は面ふくらせて、「黙つていらつしやい、餘計なお世話です。それよか御自分のことを氣をおつけなさい」。

是等の會合における祈禱は通例拜式リクニイの形を探る——

「お、神よ、御身の選民なる英國人を救はせ給へ」。

「アーメン！」と會衆がいふ。

「御身は我等を救はせ給へり、されど悪魔に仕ふる者尙ほあまた有り、彼等を救はせ給へ」。

「アーメン！」

と言つた風に、祈禱者の妄想が源泉涸れ竭くす迄續けてやつてゐる。

救世軍會員の多數なることと、その銀行預金高の多大なることとは、教會側の注意を惹き起した。この救世軍をアングリカン・チャーチの懷裡に入ること許したら、チャーチの収入は全く餘ほど増すだらう。そこでカンタベリの大僧正は營舎購入の費として五磅を寄附した。英國女皇陛下すら、少くともその精神上の擁護を彼等に與ふる迄になつた。英國國教會の首長たる陛下は、國教會の權利に屬する贈與物を爲して

自ら累を招くことは出来ないのである。且つ經濟の方針は王室でも研究して丁と御承知であるから、それは尙更困難事なのであつた。

一家の主人たる人は救世軍に對して激しく苦情を言ひ出した。召使ひの男女は不安になつて、おちついて仕事をしない。―救はれたく感じてきたのだ。大尉か少くも軍曹が始終彼等に付き纏つて、救ひの手を貸さんと待ち構えてゐるのである。

著者は先日、某警察署の報告を讀んだがその中に、さる貧しい少女が救世軍の一人に救濟せられたが、その救世軍人は娘を尙ほも確實に救はん爲め自分の旅宿に連れて行つた。然るにこの名僧知識とも言ふ男は、娘の所持してゐた二三の下らぬ飾り物まで奪つちまつたのだ。「うう、ごうも吾々人間といふものは、さうく完全無缺なものぢやないから」と、著者の相識の某宣教師は言つてゐたが……………。

「勝鬨」はゼーン・ジョンソンの改悛談を載せてゐる。しかし是は悲しむべき不幸で、

首府倫動はおかげで稀代の名物女を亡くして了つたのだ。ゼーン・ジョンソンは齡六十八歳の婆さんで、泥酔のために無慮二百九十六回その筋の御厄介になつたのである。入牢幽囚の生活年限は果して幾日月の多きに亘つたか知らぬが、ゼーンは―世界酒くらひ女のチャンピオンたるゼーン婆さんは、頗ぶる健康體を有してゐるのである、だから若し救世軍が斯んなおせつかいをして、生々潑潑たるその一生を短縮せしめること無かつせば、たしかにその最後も、その生存を價ひしたのだらう。ゼーンは在りしその上の如く、その臨終も亦公衆の最大光榮のためなることを得たのだらうに。(本書の稿を終つて將に印刷に附せんとせる際、恰も僕はゼーンが、その無邪氣なる小過失のため、又も八日間の入牢を命せられたと聞いた。實に愉快、僕は眞に嬉しい―ゼーンの如き趣味津津たる女の一生を救世軍一輩のために蹂躪せられるのは實に痛惜すべき極だらう)。

斯のごとく滑稽なる奇觀は彼の、絶えず宗派が分裂して行く自然の結果であつて、

新教會がクロムウェル時代以降逢遭したものだ。多數の反國教會はその勤行を陋俗化して以て此例を置いた。即ち彼等は宗教を人心誘惑的のものたらしめんとして、却つて滑稽笑ふに堪えたるものとして了つたのだ。牧師宣教師は役者俳優に變化て、彼が天に向つて目を上げずして牧師宣教師を救世主と崇むる信徒會衆に偶像視せられた、否殆んど渴仰信心せられたのである。教會に參詣する男女の衆生中、その愛する牧師宣教師の説教を難有がつて聽聞すること無く、眞にゴッドを拜みに行く者も〜幾人あるだらう。その本來の意志は奇特であつたが、而かも尙ほ、是等の行爲所作は著者が本章に於て記載せんと企てゝゐる結果を生ずるに至つたのである。

最も有名なる―最も有名なる、と僕は言ふのだ―牧師の一人は、或日不圖思ひついで、その説教の最中に、説教臺の階段の欄干に跨つて、そしてする〜と下迄滑り落ちたのである。頓て再び講壇の上に身を返して言つた―「さて參詣の衆よ、世間の悪人は今拙僧がやつて御覽に入れたやうな風にして地獄に墮ちるのでありますぞよ」。參

詣の善男女はくつ〜笑つてゐたが頓て噴き出してやんやとばかり囃したたてたのであつた。

著者は茲に救世軍の大將に就き一言を費さずしては本節を終るわけに行かない。

救世軍はその大將のほか何人のオーソリチイをも認めない。大將は全能力者である、彼は金銭の出納管理の權を有してゐる。その呼び聲に跟いてくる數千の鴛鳥に洗禮を施こし、婚禮をさせ、救濟し或は懲罰する。大將の妻は良人同様、その家族の營める使徒的事業に活動奮闘する。大將の息子と嬢子とは大佐となつて救世軍の分隊枝隊を指揮してゐる。

千八百八十二年の十月、大將はその息子を美くしい女救世軍人と結婚させた。その式場にあてたのは一大ホールで、參觀の入場料は一志といふことだ。鍊鐵はその灼熱せる間に打たざるべからず、救世軍士の一時的狂氣沙汰が何日まで續くものではない

から、即座にやっつけなげや駄目だ。

廣いホールは群衆で溢れた、新郎新婦は大將および一家の希望以上に祝福を受けた、一人一志で總計六千人、そこで収入總額三百磅！

大將は馬鹿でない。

廣告の効驗顯著なるこの英國でありながら、何故に大將はまだ天セレスチアルキエスチエアの合劑サレ即ち救世丸エーシヨーン・ピルズを發明せなんだか、僕は想像に苦しむ。救世丸エーシヨーン・ピルズ！此奴は屹度素張らしく當るに相違ないね。大將は「勝鬨」の中に一寸こんな風な廣告文を載せれば可いのだ！

「大將閣下——さる土曜日の夜小生は閣下御發明の驚くべき——小生は奇蹟的の、と申すべく候——丸薬を服し申し候。寢所に入るまでは頑迷なる罪人にて有之候らひしに、目醒めし時は全く悔改いたし居り候ひし。引續き今二三粒も服用し候はんには、小生はたしかに聖徒と相成り可申候。此丸薬は何人もその寢室に缺ぐべからざるものに御座候。さて此書簡は閣下如何やうにも御隨意に御使用被爲下候て小生更に異存無之候。

只今郵便爲替にて二志六片封入いたし置候へば、何卒荆妻の服用分として救世丸薬御送り届け下され度、この段御願ひ申し上候」。

一種獨特の信仰は獨特派（ベキユリヤー・ピール）の信仰である。この派の人の神ゴッドに對する信仰は實に熱烈なるもので、誰か團體會衆の一人が病氣に罹るといふと、一人の醫者をもその病床に呼ぶことではない。何故か。何故といへば、その派の人の勘考するところでは病人を醫者にかけるのは神ゴッドを侮辱するものである、神を信じないことを證するものであるのだ。「若し我が死ぬべきことが主シウの御心ならばその御心の儘になさしめよ。何ものも我を救ふことは出来ないのだ。それとも我が恢復すべきことが主の御心ならば、主は醫者の扶け無くとも我を救ひ賜ふことはできるのである」。

此派（序でに言ふが此派は實に多數の信徒を有してゐる）の宗教的所信を述べるに當つて、裁判筆記を拔萃するほど適切なことは無からうと僕は思ふ。いはゆる裁判筆

記とは、怠慢の結果、父がその兒を死に至らしめた訟訴事件の傍聴記だ。

裁判官「その方の小供は死んだ。其方は醫者を招くことを拒んだ、左様か」。

被告「悴の死んだのは主の御心でござりまして、醫者の助けしてくれることはとても出来ぬことなのであります」。

裁判官「けれども其方は悴の危篤に陥つて居るのをみて、醫者を招くは親の務めとは思はんのか」。

被告「どう致しまして、私は御神を恐れて、一切御神を信じておりますので」。

裁判官「去りながら、例へば其方が馬車から墜落して脚部に負傷したとして見よ、其方は醫者を招きはせんかな」。

被告「その様なことが有る譯のものでござりません。御神は私めをお護り下されます。正しき者の骨は一つだに傷つけらるゝことなしとは主のお語でござりまする」。

裁判官「けれども、假りに傷ついたと想うてみたら如何ぢや」。

被告「そのやうなことは想ふことができぬのであります」。

裁判官「それや宗教を信じたらさうあらう、無理もない、が、今一度尋ねるが其方は、其方の悴の一命危ういと知つて、醫者の救ひを求めるのは當然のこととは思はんのか」。

被告「思ひませぬ。悴の死ぬのが神の御心でなくば悴は死ぬ譯には参りませぬ。

お役人様、若し貴方さまが眞に御神をお信じなされますなら、私に其やうなお尋ねはなされませぬ。私どもの一家に病人がござりますれば私共はその者に油を灌ぎかけて、雅客書中に興えられた命令に従うて祈るのでござります。若し神が病める者を私共から取り去ることを好まるゝなら、我等はその天意に随ふのであります」。

此事件の詳しいことは千八百八十三年一月廿四日の諸新聞に現はれてゐた。

その後二ヶ月、この同じ男が同じ事情で第二子を死なしたために處刑せられた。けれども英國人の如く自由な民、自由貿易の人民であつてみれば、如上の信仰中に

何か度外づれな方外なことが在るとは僕はどうも思はない。英國で試験を受けて得業證書を握ることの出来ん醫學生は、蘇格蘭土に行きさへすれやわけ無くそれが得られる。或は又中には亞米利加へ行つて是れを貨で買つてくる者もあるのだが、斯んな醫者の手にでも知人朋友を安心して托さうと待ち構えてゐる人々が澤山在るのだから、してみれや、寧ろそんな鍛先生より天の攝理に信賴せんとする傾きを有つ人のあるのも強がも不思議とするには足らんのだ。

今世紀の初期、デヴォンシャヤ州に跳躍派ジャンパーと名づくる一宗派が起つた。その開祖はデョアンナ・サウスコットといふ婦人で、此宗派を創めた所以は處女マリヤの靈に憑かれたからだと言言してゐる。彼女の唱えた教理は、惡魔デビルは到る處に偏在してゐるから基督教徒たる者はその頭の上を跳び越えなければいかん、といふのだ。高く飛び上れば飛び上るほど惡魔の頭窩はんのくぼに飛び下りて是れを征服し且つ我が救はるゝの機會が愈

々多いといふのだ。しかし其時にはもう惡魔は活きちやゐないのだ、是は僕が確證する。此派の人々は一言隻句も發せず、思ふ存分飛ぶことを得るチャペルボップを皆所有してゐた。跳躍派は今日尙ほ多少存在してゐる。或時デョアンナ・サウスコットは、聖靈に因つて孕むべしと信じてゐた。乃で彼女の信徒は待ち設けてゐた聖ホーリー・チャイルド兒の出現を花々しく迎へんと多大なる設備をしてゐたのであつたが、氣の毒なる哉それは失望に終つて了つた。デョアンナは死んで、その身と共にその秘密をも腹中に永く葬つたのだ。サウスコット派の人は、このデョアンナは約翰の默示録中に記された廣野の婦人に相違なし、と信じて今も尙ほその復活を期待してゐる。お目出たいことだ。

第三十一章

英國民は失はれたるイスラエルの十族に相違無し—アングロ・イスラエル人同種研究會—同種なりとせる七十七條の證據—毒麻を柔かき手にて握れば痛く手を刺す、剛勇者の如く是れを握

めば柔かにならん—更に多くの宣教師を要す—同種の一新證據。

三

英國民はバイブルに養はれたる國民であるから彼の忘恩、臆病、殘忍而かも御神の撰び給へる國民のために、進んで滿腔の同情を傾注しなければならぬ筈だらう。此國民の前には攻圍せられたる町都まちの壁が喇叭の響で倒された、此國民に向つては神が身親から物語られた、そして此國民のためにはその敵者の上に雨なす雹ひょうのあらしを濺ぎかけて戦つたのだ。

エルサレムの滅亡の際、猶太人は離散して了つた。僕は、又の名をユダの家の子等と呼ばれたるユダ及びレヴィ族の猶太人を意味するのである。他の十種族即ちイスラエルの子等は全く失はれて見えなくなつた—史家は決して彼等の踪跡を發見することが出来なかつたのである。

ヂヨン ブルはその此世に於ける成功を、宗教宗門の事に關しては我れ、あらゆる諸國民を凌駕するに因ると稱してゐるが、彼れ獨語して曰く—「誰か知らん、我れこそ

彼の失はれたるイスラエルの子等にあらざらんや」と。

ヂヨン ブル尙ほ曰く—「吾等が大事を成すことは確實なり、吾等が特定に因つて天の選民たることも確實なり。太陽に向つて靜止して動かざれと命令したる者は是れ吾等が祖先なり、とすることは正に可能事にはあらずや」。斯のごとくして英人は、自己の蹠あしうらを濡らさずして紅海を横切りたる彼人々と、自己とを同一人種なりと考へんとしたのである。

そこで英國には『アングロ・イスラエル人同祖會』アインゼンチーリツサイエチーの名の下に一の團體が組織せられた、その目的とするところは、大英國人民は彼の失はれたるイスラエルの十族に外ならず、といふことを論證せんとするに在るのだ。此團體は決して事を等閑に附しては置かなかつた、彼等は今日に至るまでに、此同祖論問題に關して七十七ヶ條を下らぬ例證を聖經スクリプチュアから蒐集した、凡そ一百種の書籍と小冊子パムフレットを刊行して本問題を研究した、會員は續々として増加した、英國民の成功は最早怪むを要せざる程となつた

三

「神の指はその仕事の上に觸れてゐるのだ。」

三〇

同祖論の證明は寧ろ巧妙なるものである。今その數種を掲げて諸君の御覽に入れやう。

「イ○ス○ラ○エ○ル○の○子○等○は○パ○レ○ス○タ○イン○の○西○北○に○横○た○は○れ○る○諸○島○に○住○ま○ひ○、
ヘ○ブ○ラ○イ○語○に○あ○ら○ざ○る○言○語○を○用○ひ○た○り○き○。」

「英國民は島嶼生活を爲してゐる、その島嶼はパレスタインの西北に在る、そして其言語は拉典、ゼルマン或はケルト語源の四萬三千語から出來てゐる。」

「セミチックの分子は缺如してゐる。」

「イ○ス○ラ○エ○ル○民○は○地○球○上○何○れ○の○地○に○も○殖○民○地○を○所○有○し○た○り○き○。」

是れ彼等が以賽亞書の第五十四章第二節を解釋せるもので、「爾曹は右に左にひろがり、爾曹の末裔はもろくの國を得、荒廢れたる邑をも住むべき所となさしむべし」の本文に叶つてゐる。

著者はこの會の小冊子から二三の拔萃を爲さねばならない。勿論著者のこの小著書は僭心無き一小著ではあるが、而かも餘白を割いて斯かる引證をするのは實に大に敬意を表したつもりである。しかし、國民的虛榮心と宗教的狂熱が當該事件なる時、その蠢愚が果して如何の程度まで上昇するかを見るのは面白いことだ。

「是れ吾人の希望せるところなるや否やを問はず、吾人は殖民地を所有せざるべからず、蓋し是れ吾人の命運なればなり。和蘭陀人及び西班牙人は嘗て殖民地を所有せしも、殆んどその全部を失ひはてぬ。彼等の所有せるものは如何に瑣細なりとはいへ、頓て讓與し去らざるべからざるものなり。佛蘭西人は實際何物をも所有せざりき。獨逸人は所領せんとして失敗したり。されど大英國人民は世界のあらゆる部分に繁榮せる殖民地を有す—尙ほ益々進んで更に是れを要す。土耳其帝國はその滅亡今や且夕に迫れり、コンスタンチノーブルは當然吾人の手中に歸すべきものなれば吾人は須らく即時是れを占領すべきなり。コンスタンチノーブルは吾等の至善最大なる外國所有

地—印度なる充溢せる數億萬の人口と四十種の異なる言語を有せる地域に達する公道大路の關門なり」。

「イスラエルは自己より分出せる、而かも獨立せる一國民を有せざるべからず」。

「亞米利加國民がその獨立宣言書を年々紀念し祝祭せるに就いて、神恩を感謝せる理由はあまた在り」と是等の著書の一は記してゐる。

又記して曰く—「亞米利加は大國民なり、神に謝す、米國は吾等より分別せらるべき命運を有せるなり」。

千七百七十六年ヂョナサンは自己の用務に關し暴力を振つてヂョンブルに對して成功したのであつた。その結果ヂョンブルは彼に對して甚大なる尊敬を持するに至つたのである。彼は決してその耳に阿諛の言を私語く機會を逸しなかつた。—

『柔らかき手もて蕚麻いらくまに觸れなば、

汝を刺して痛みを覺えん。

勇者のごとく是れを攪めよ、

さらば絹のごとく柔らかならん』。

「イスラエルは今帝政モナキヤの下に在らざるべからず」

著者は、英國の帝政の如く強固に作られたるもの他に在りとは思はず、この説を承認する。

「イスラエル人はその棲める島國の内にて他に征服せらるること決して無し、否如何なる戰闘を経るも他を征服せざるべからず」。

「佛蘭西人、露西亞人、西班牙人、和蘭陀人、支那人、印度人、獨逸人、埃斯土人および伊多利人は何れも征服せられたる國民なればイスラエル人なることあるべからず」。

「英吉利國民のみ獨り征服せられざりき。この故に英人は即ちイスラエル人ならざるべからず」。

斯んな杜撰なことが著者の自腹で印刷されてゐる。斯んなことを諸君にお聴きに入
れる必要はない、のだが、それでも、印刷されてゐるのだ。

又々拔萃してこやうー

「吾等のみ獨り畏怖すべき戦鬪の矢表に立ち得る國民なり。吾人がイスラエル人と
同祖なるべき此保證は、半島戦争ベニスラウワーに於て發揮せられたり—この戦争に於てウェリント
ン公は小軍を率ゐて殆ど全歐の軍勢に對抗したり」。(疑ひの眼で僕を見詰てはいけな
い、全文平易明晰な文字で記されてゐるのだ。斯う平明な文體で僕には史論が書ける
とは到底思はれない、ね諸君)。「吾人は僅々端艇數隻に積むべき人數を以て、百萬を
以て數ふべき支那人と對抗し以て勝利を博せり。吾人は五六白人の勢力の下に、數億
を以て溢るゝ印度を維持す。吾人は單に一小隊を以て、クリミヤに於て露人を破りぬ。
(同じく此所に會戦した四萬の土耳其軍に關しては一言してゐないとしても、哀れむ
べき二十萬の佛軍に對して半句の言なきは如何)。而してアシャンチー、阿富汗、ゾー

ル、及び埃及における吾人の勝戦を見よ。若し斯ること列舉してあらん乎、永恒盡
くる期なかるべし」。永恒盡くる期なくちや僕は大變だから手取早くやつつけちまは
う、諸君もそのおつもりで……實際頭痛がしてくるよ。けれども、以上の數行は此會
の保護の下に發行せられた最も嚴格なる書物から拔萃したのだ、即ち一聞十知だ。
上に擧げた勝戦の表中に同祖會は謙遜してトランスワール戦争を記述することを略し
てゐる。ポア人がデジョンに對して激烈なる打撃を加えた事實は、アングロ・イスラエル
同祖の證據の第三十三條と爲すには少しく困難と思はれたのだらう、無理の無いこと
さ。強硬なるポア人は今自國に在つては主權者となつてゐる。近代のイスラエル人は
彼等に對して絶大の尊敬を拂ふのみで、彼等を記述することはしてゐない。
「イスラエル人は安息日を守るの人民ならざるべからず」。

同祖會員は叫んで曰く、「吁我等の首府はわが沿岸を訪問し來る外國人に取り、廻り
來る安息日は奇蹟、不可思議にして又驚駭ならざるなきを得んや。是れ實に莊嚴なる

光景也。宇宙に於て最も繁忙なる四百萬の人民が各自殆ど皆その商店を閉ぢ、公衆娛樂所及び休養所は殆ど残すところなく其門扉を鎖して、二十四時間を周圍の世より絶縁す。郵便局は全く閉鎖し、電信も鐵道も凡て運轉を休止し、市民の大多數は一週の勤勞より休息す。是れそもく何故ぞ。倫動は安息日を確守せるが故なり。

しかし是れは必ずしも正確でない。地方には日曜郵便局あり、電報の取扱ひ亦日曜日にも行はれる。そして倫動の汽車は午前の禮拜時だけ運轉を休止するのだ。公館割烹店も營業してゐて、家宅侵入罪の行はれるは普通の日より却つて安息日に多いことも皆人の知るところだ。イスラエル人の家々は、此同祖會が吾等に信せしめんとするやうには安息日に全然休息せぬものとみえる。

「イスラエル民族は多産多生の人種たるべし。」

神は實にエーブラハムに約して、其人民多衆の父たるべきこと、其子孫は天の星屑の如く夥しかるべしと言ひ賜ひしものだ。ヤコブはその夢告の中に、自己の身を置く

土地を所有すべきことと、その子等は地の塵のごとくなるべしと主より聞いたのである。

此會員は言ふ——「何處にか英國民のごとく爾かく速かに繁殖する國民を見出すを得んや。」

現在繁殖の比率を以て進むとすれば、アングロサクソン人種が、紀元二千年には正に十八億三千七百萬を數ふるに至ることは事實である。

「クオ・クワイ・サ・イ・エン・チ・ライ・イ・ツク・レ・ザ・イ・ユー」
年四回刊學術評論」は千八百七十三年六月號に於て、アングロサクソンは歐州に在ては五十六年間にその人口を倍加すべく、殖民地に在ては二十五年間に倍加すべし、と言つてゐる。然るに人口倍加に獨逸は一百年を要し、佛蘭西は一百四十年を要すとのことである。

かるが故に、英吉利はイスラエル種族ならざるべからずと。

「此國には小兒の數は何程あるですか」と僕は或日一英人に聞いてみた。すると——